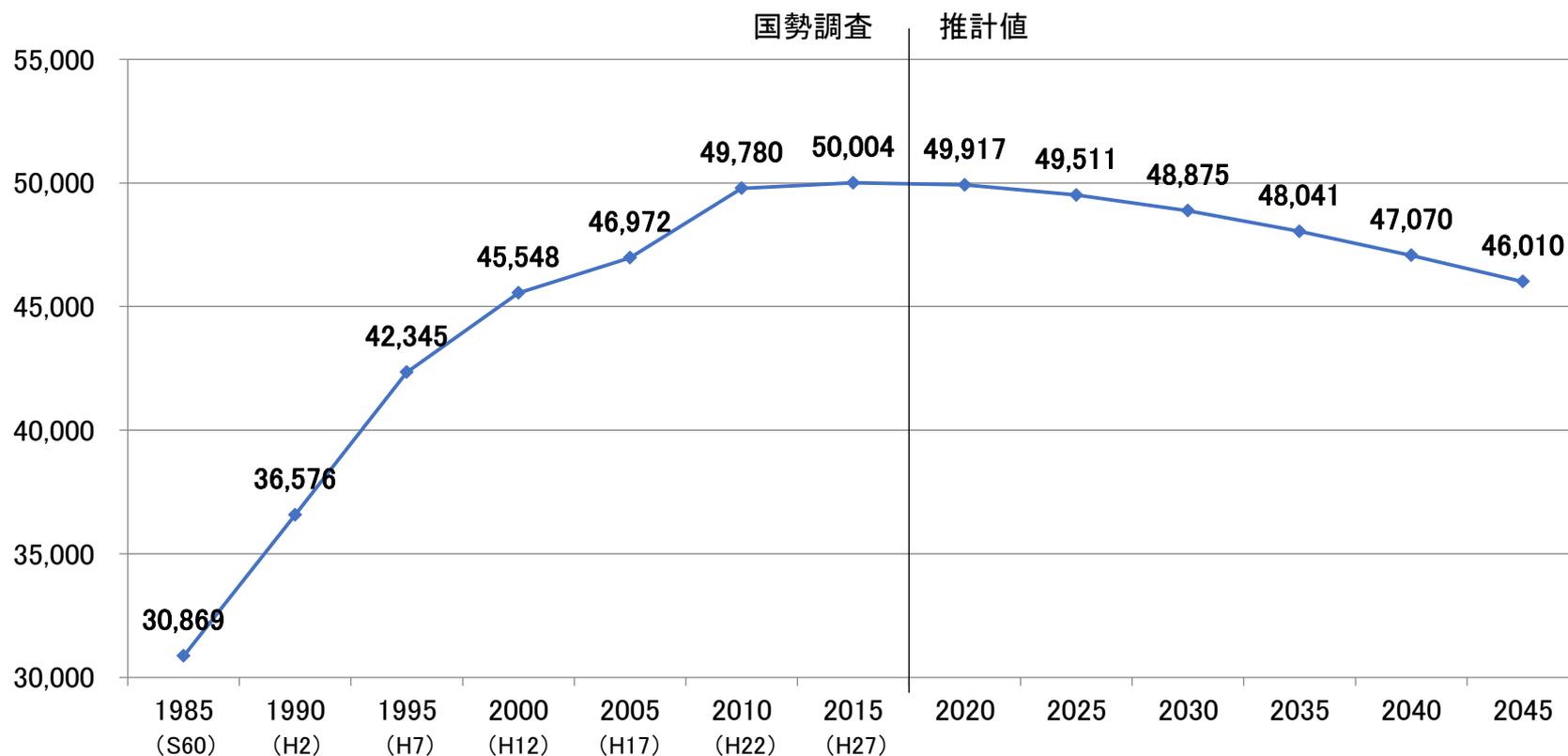


本市の都市構造における現状と課題

(1) 総人口の推移

- 2015年まで増加傾向、将来は人口減少に転じる予測



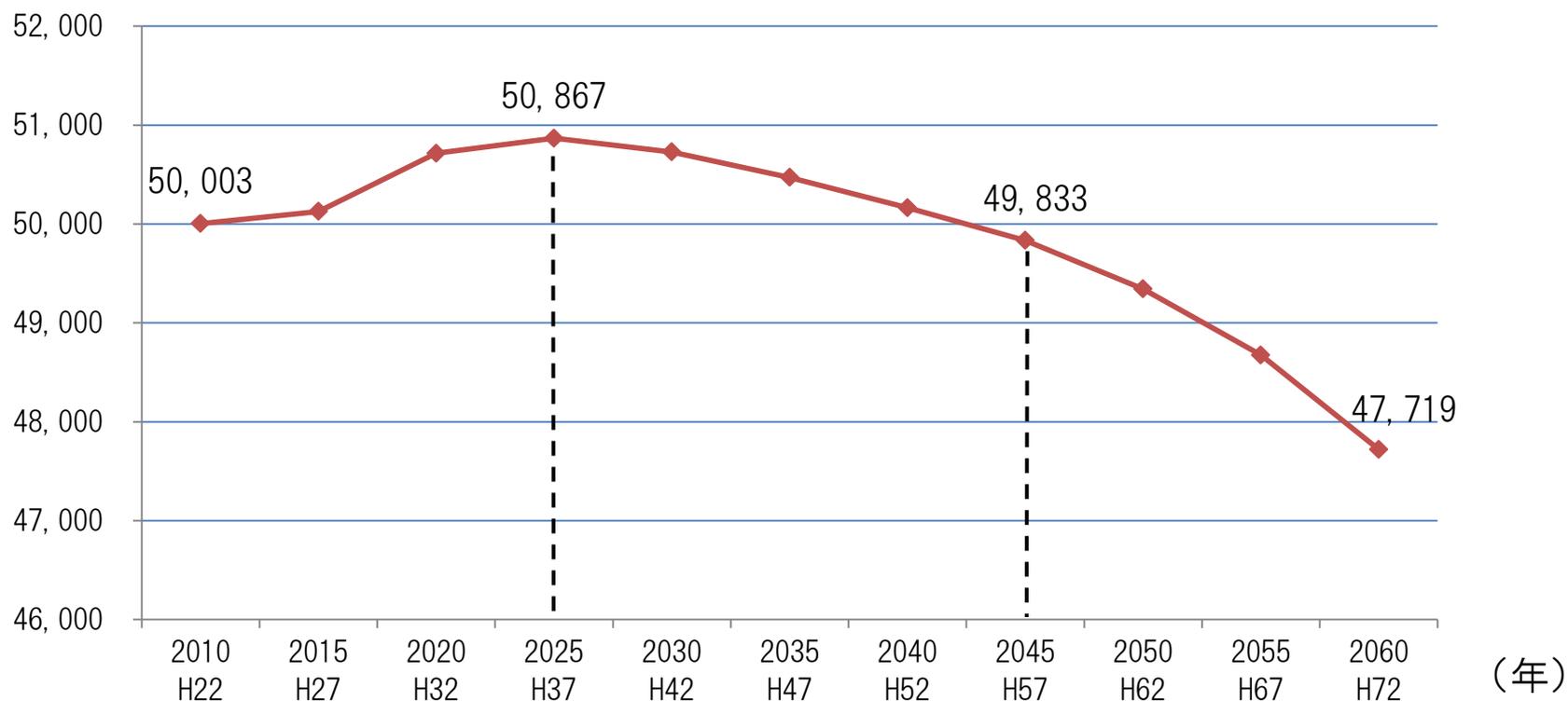
出典: 国立社会保障・人口問題研究所

図 人口推計の推移

(1) 総人口の推移

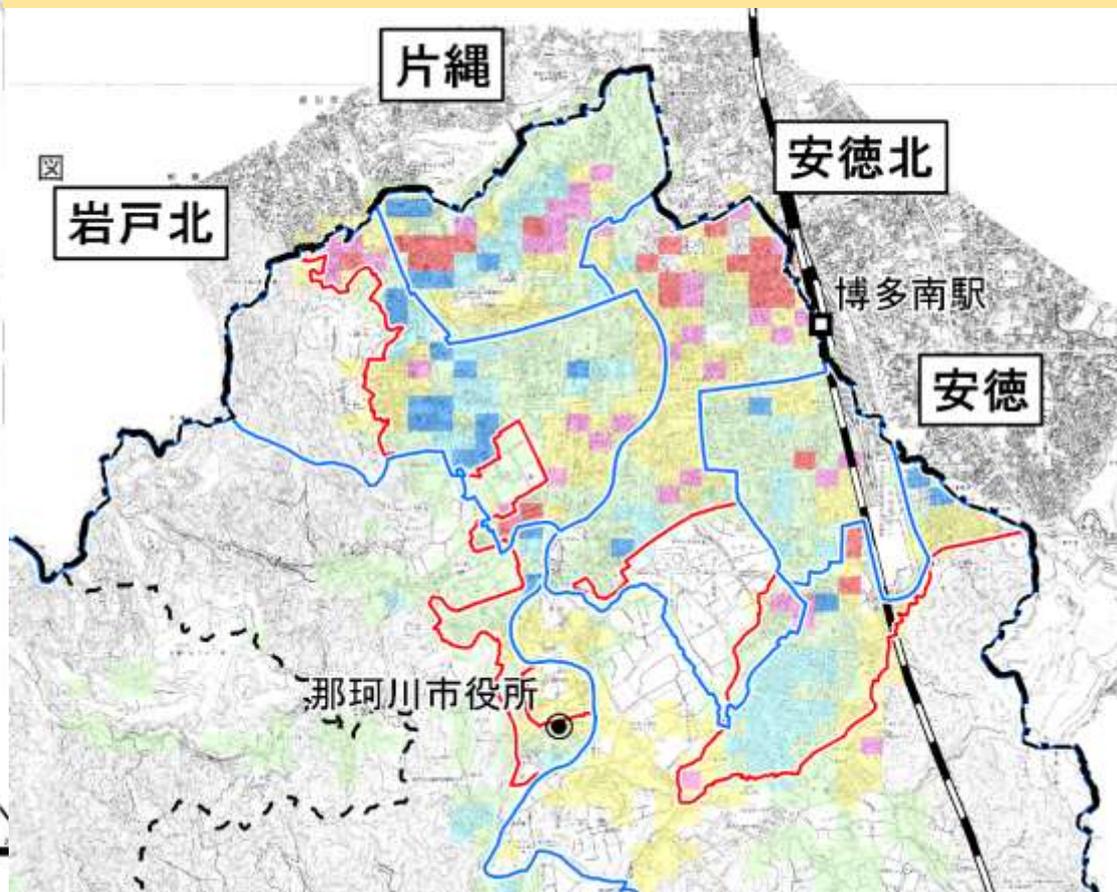
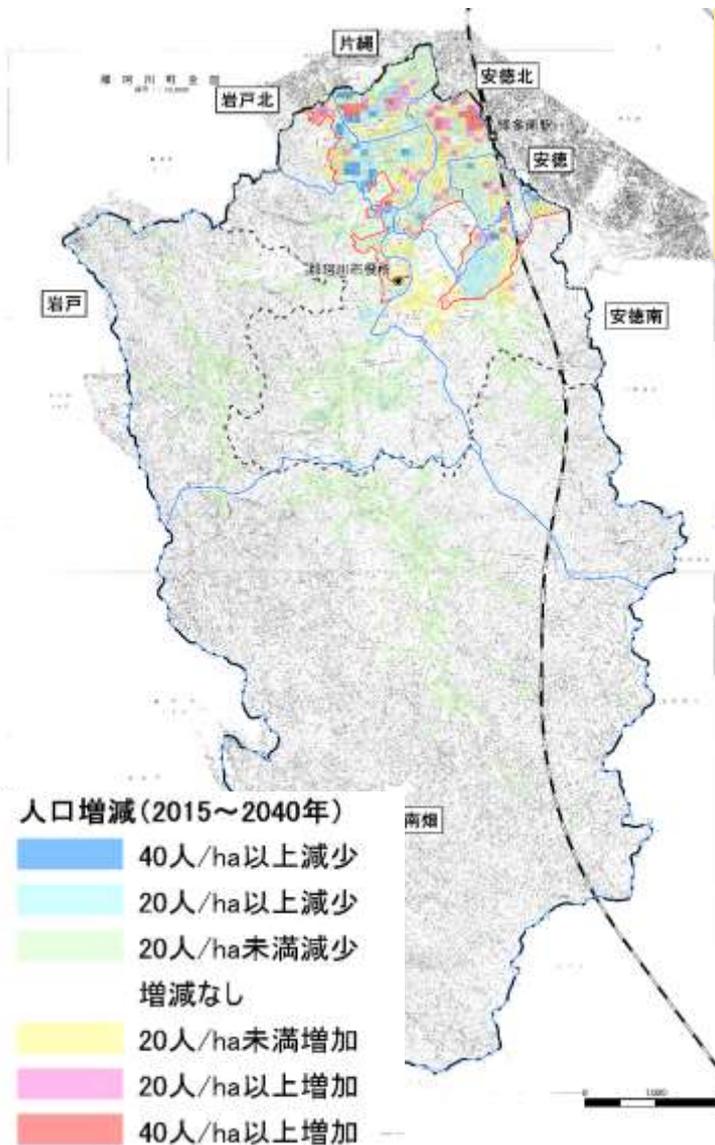
那珂川町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略 推計値

(人) 那珂川町の総人口



(2)小地域別人口推計 100mメッシュ人口密度増減

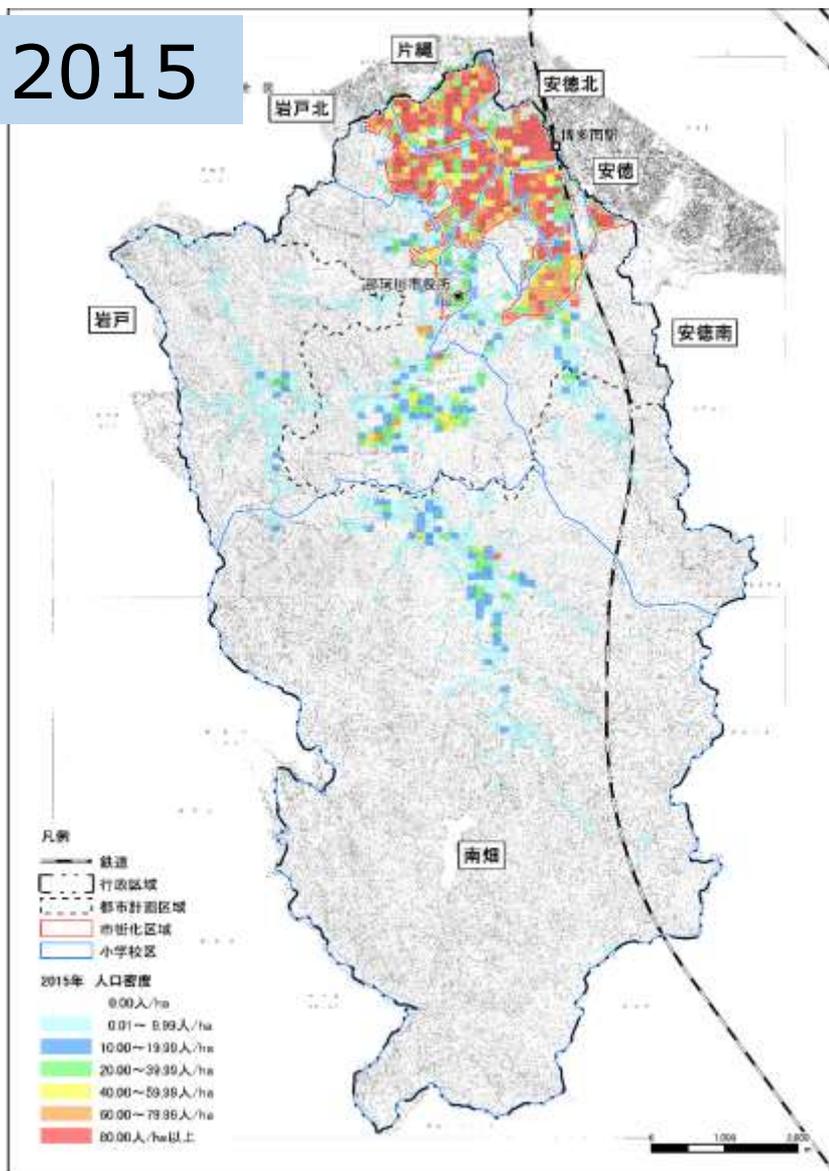
- 全市的に人口減少が進む予想
- 市街化区域内では今光や片縄地区等一部で増加傾向もみられる



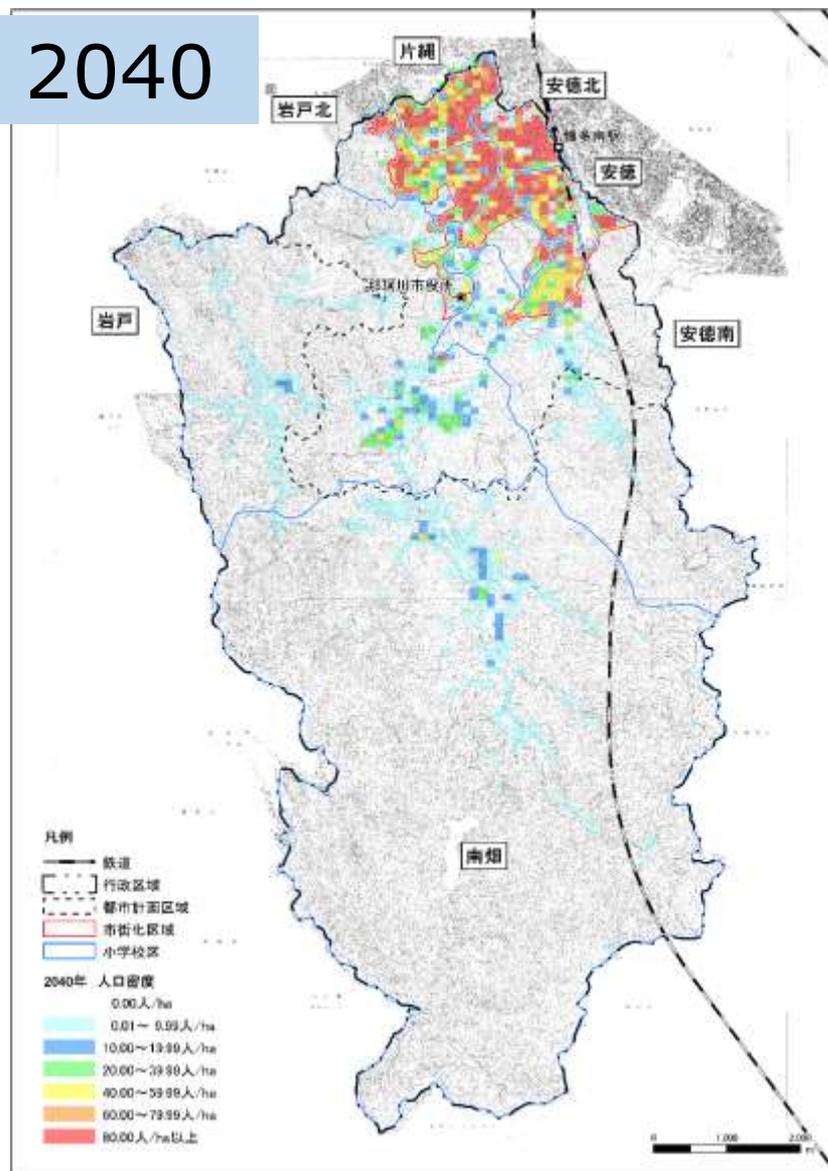
人口

(2)小地域別人口推計 100mメッシュ人口密度

2015

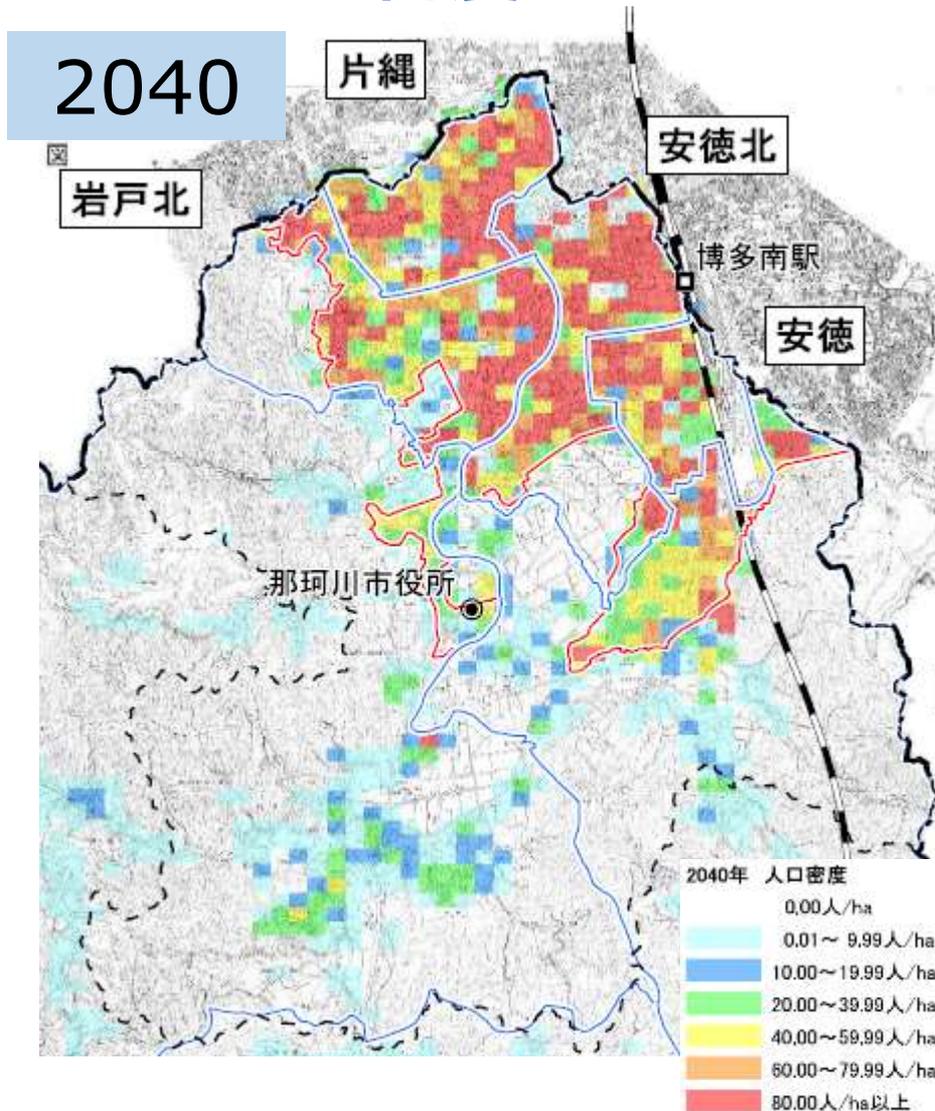
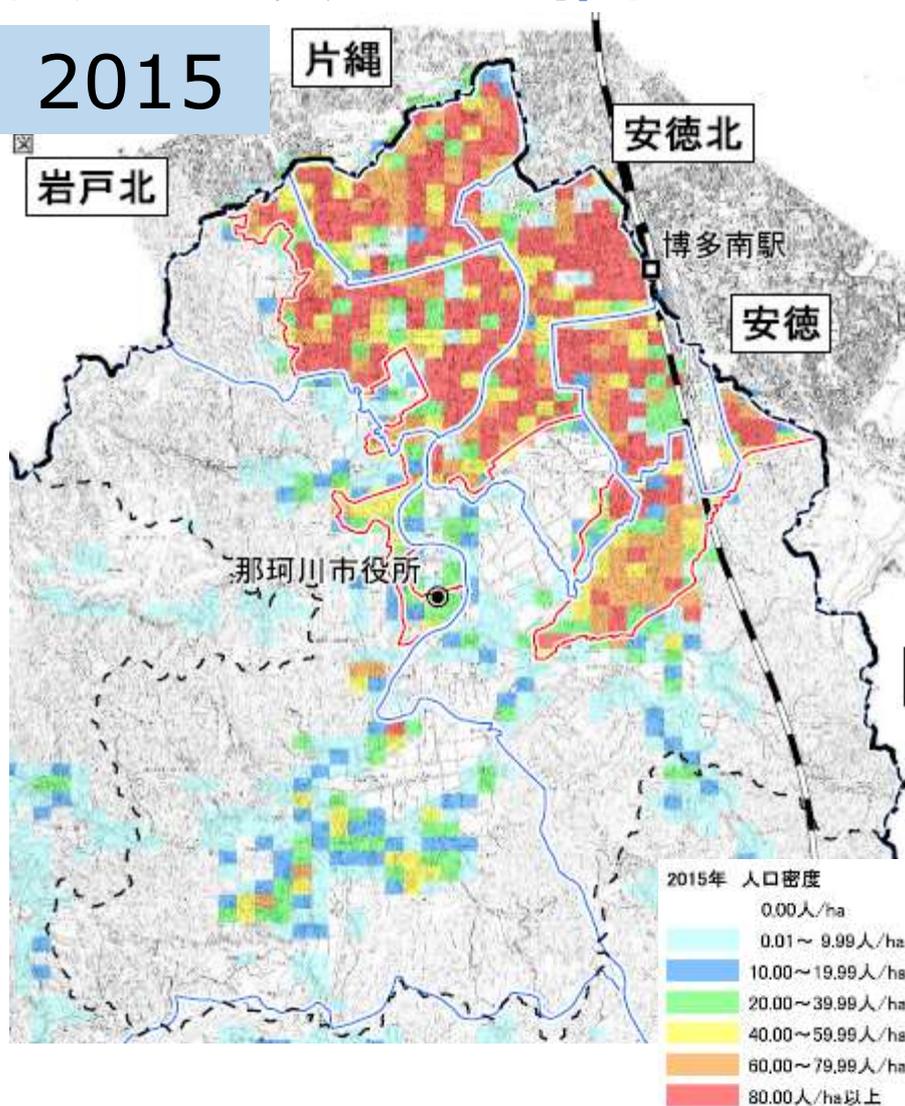


2040



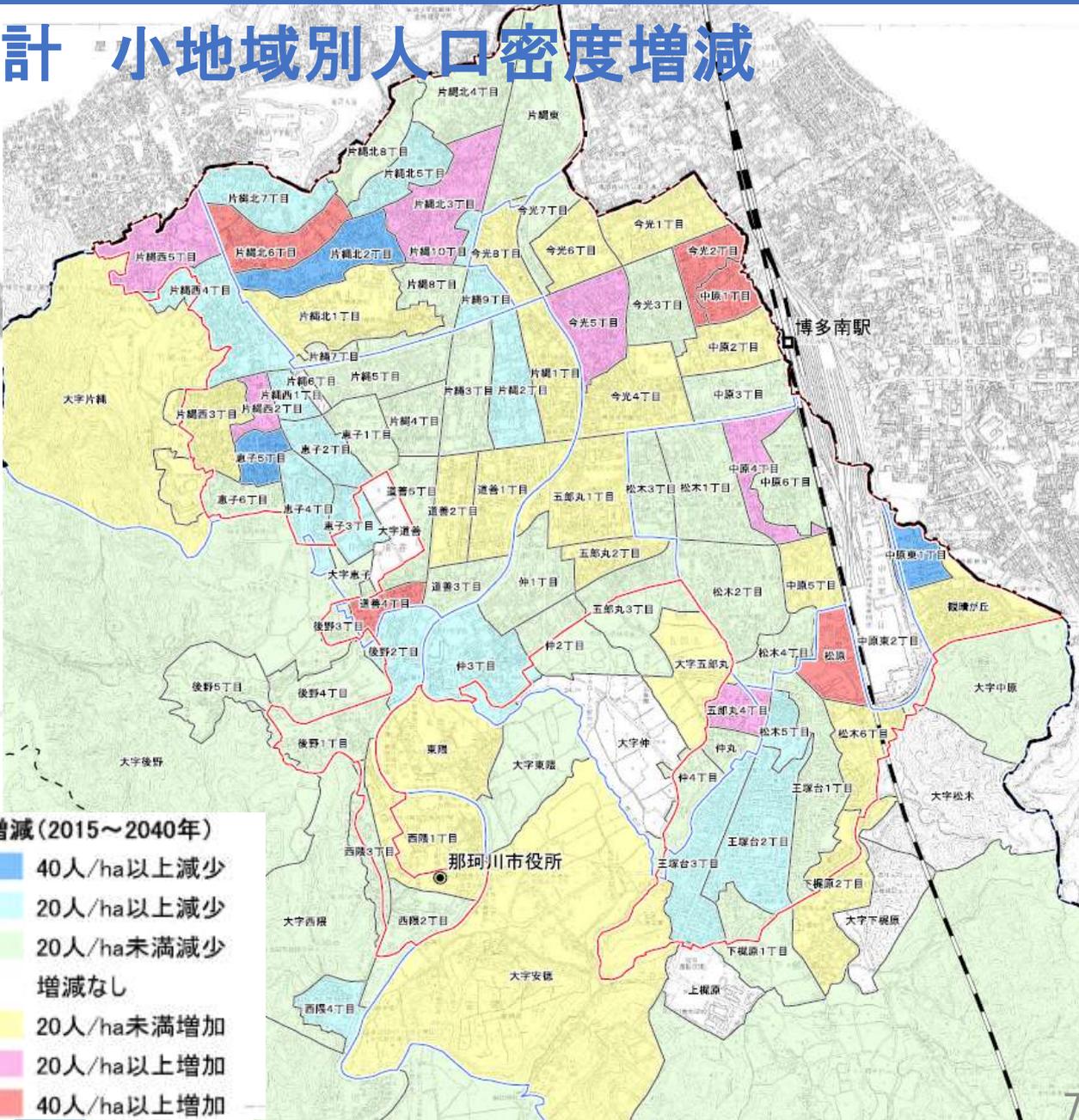
人口

(2)小地域別人口推計 100mメッシュ人口密度



人口

(2)小地域別人口推計 小地域別人口密度増減

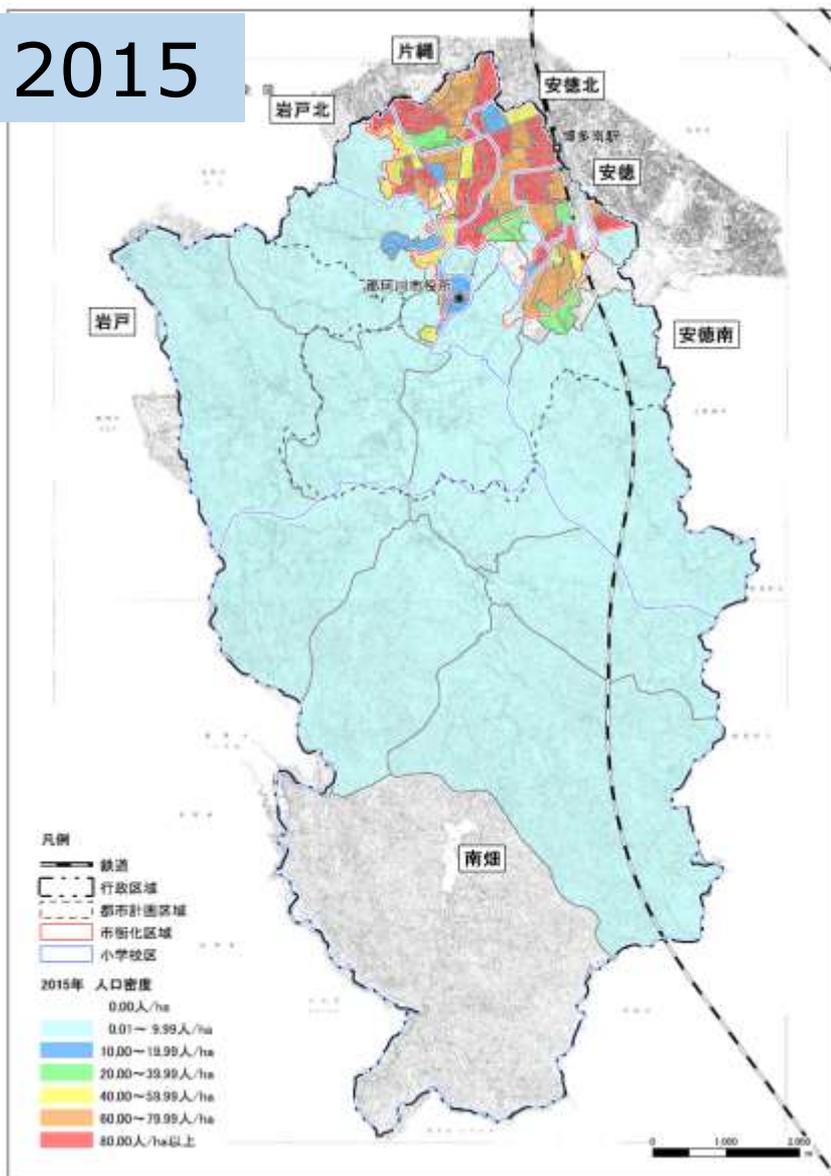


人口増減(2015~2040年)

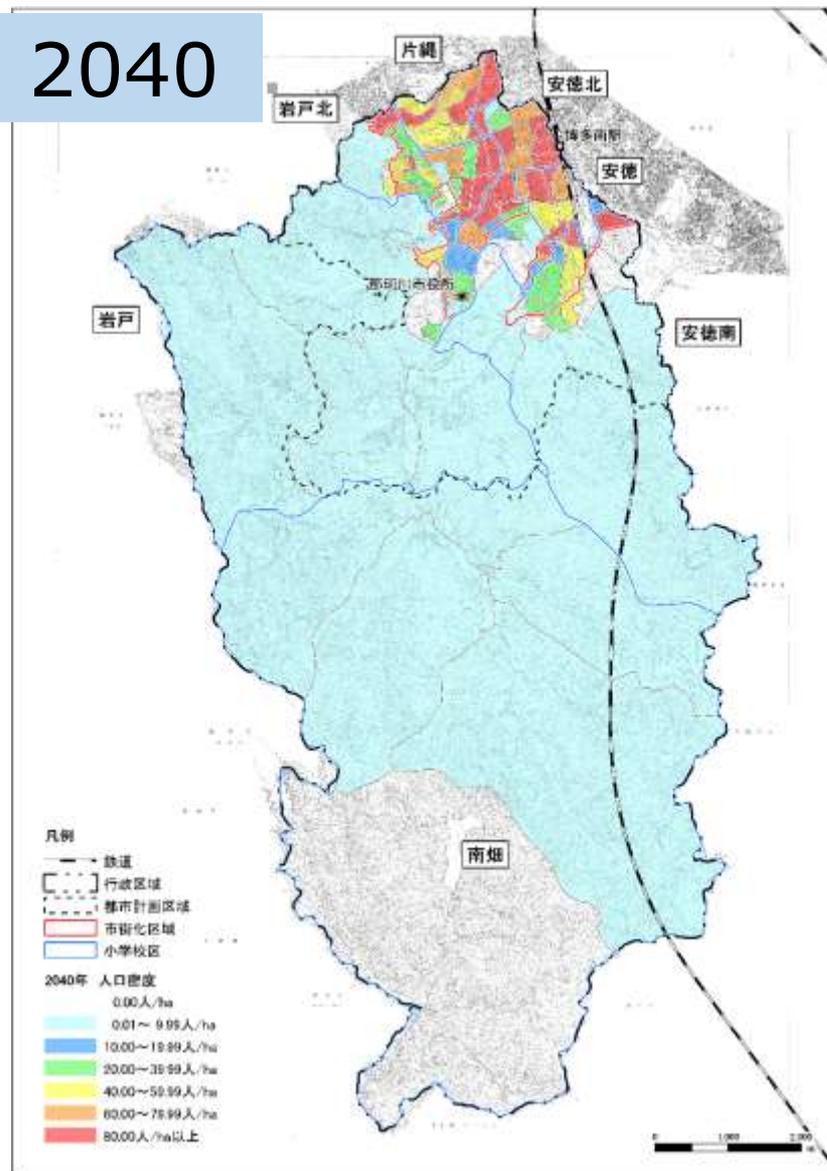
- 40人/ha以上減少
- 20人/ha以上減少
- 20人/ha未満減少
- 増減なし
- 20人/ha未満増加
- 20人/ha以上増加
- 40人/ha以上増加

(2)小地域別人口推計 小地域別人口密度

2015



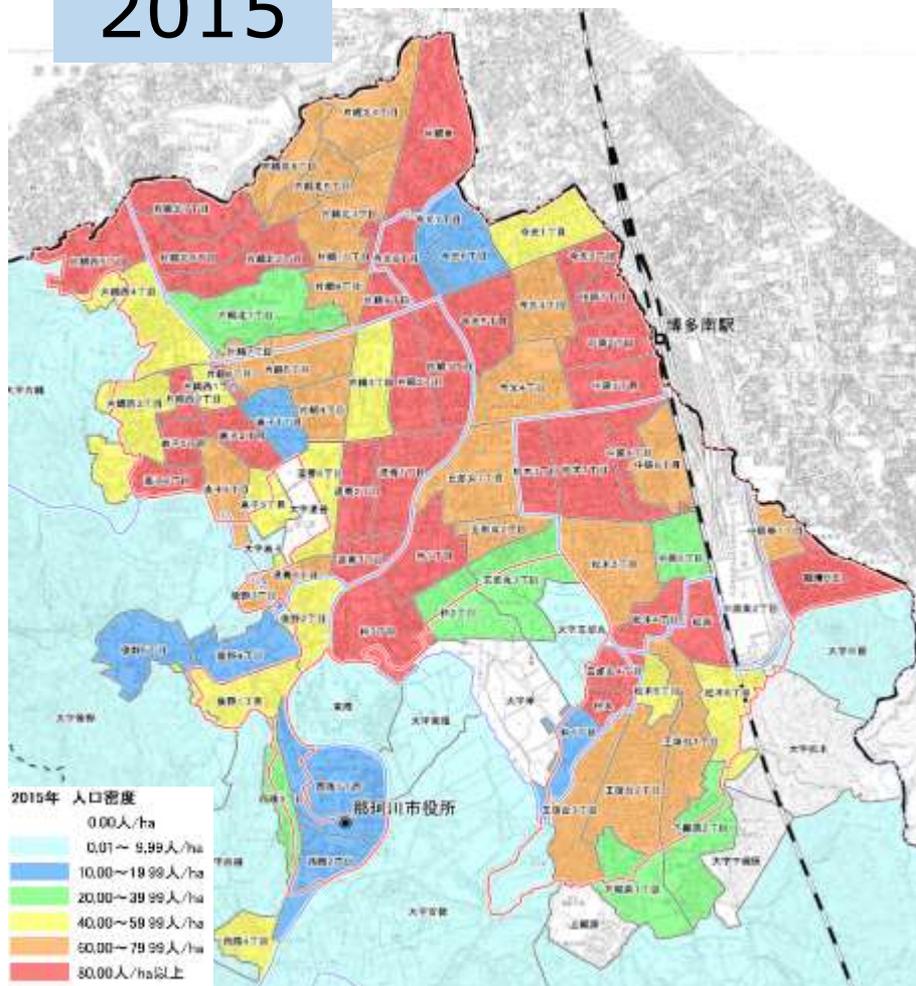
2040



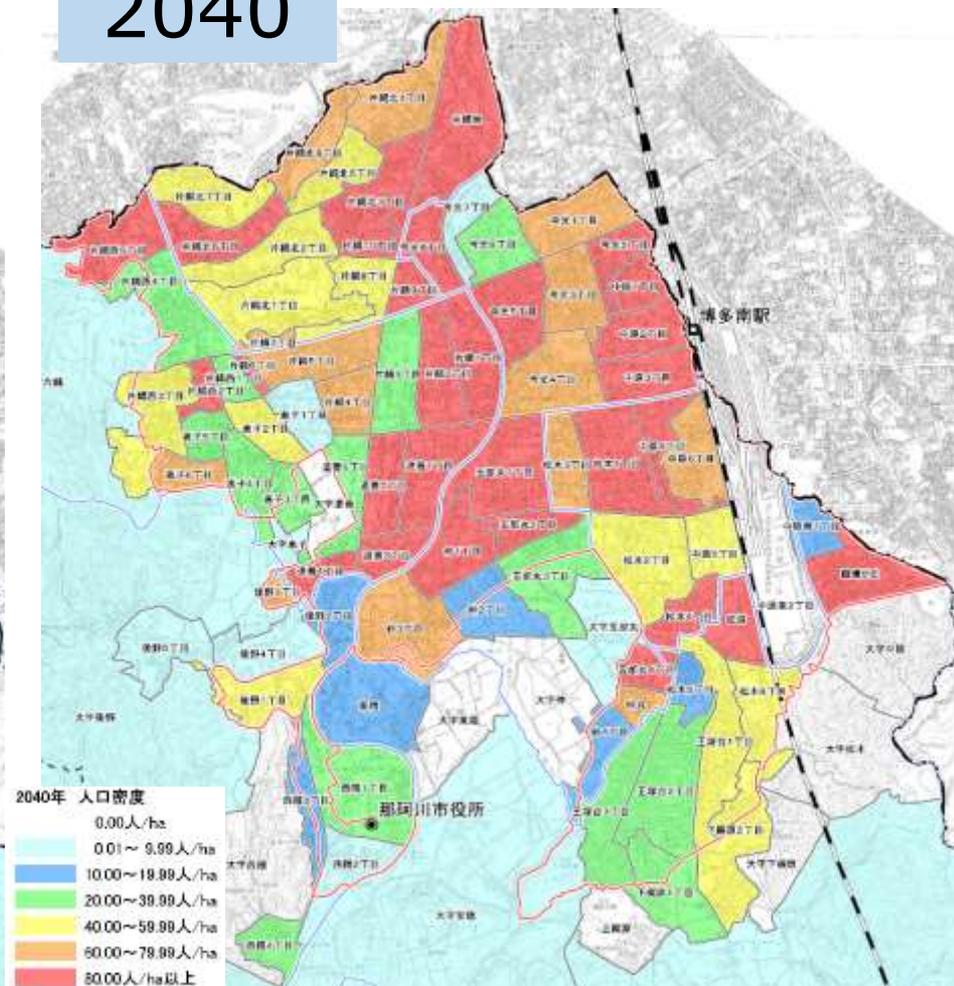
人口

(2)小地域別人口推計 小地域別人口密度

2015

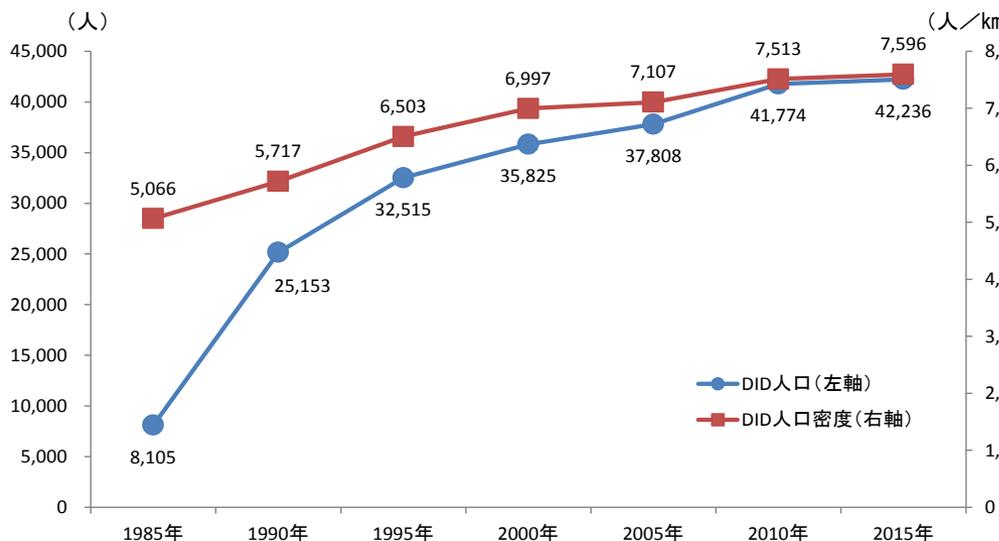


2040



(2)人口集中地区(DID地区)の推移

- 人口集中地区・人口密度が拡大



出典:国土数値情報(人口集中地区)2015年のみ国勢調査

図 人口集中地区の人口と人口密度

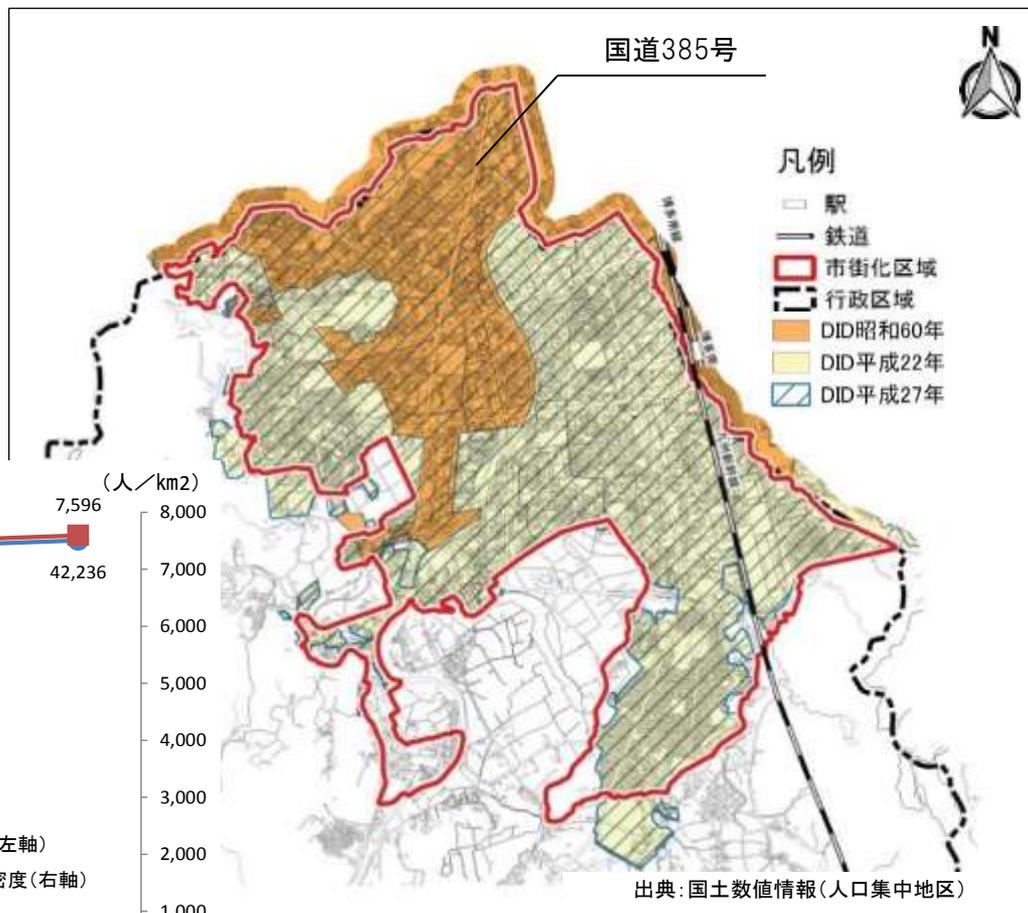


図 人口集中地区の区域

(3) 年齢別人口及び将来推計

- 将来的に少子高齢化の進行が予測される



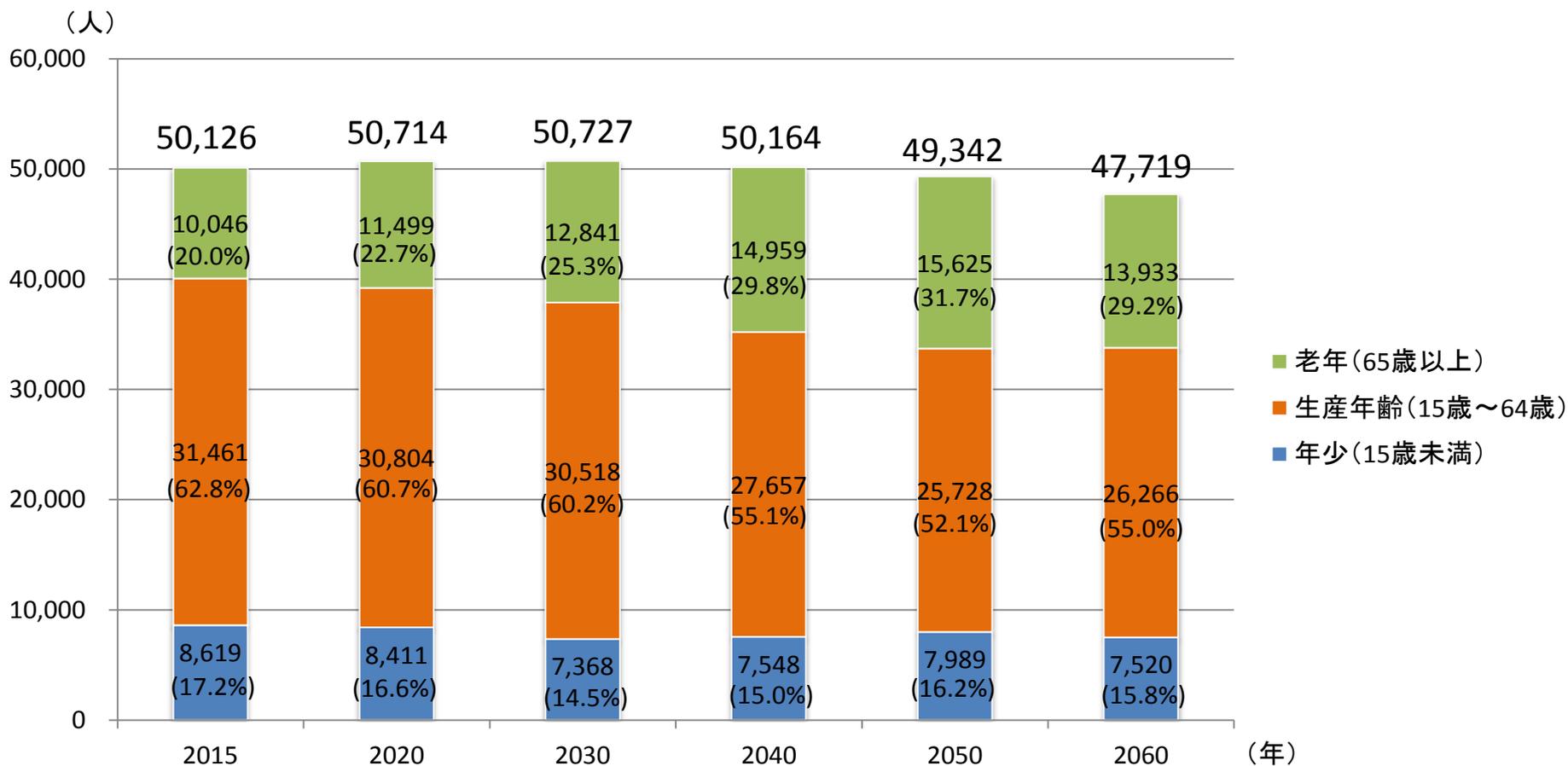
※2005年～2015年は年齢不詳を省く

資料：国勢調査（2005年～2015年）
 国立社会保障人口問題研究所推計準拠（2020年以降）

図 年齢別人口の推移

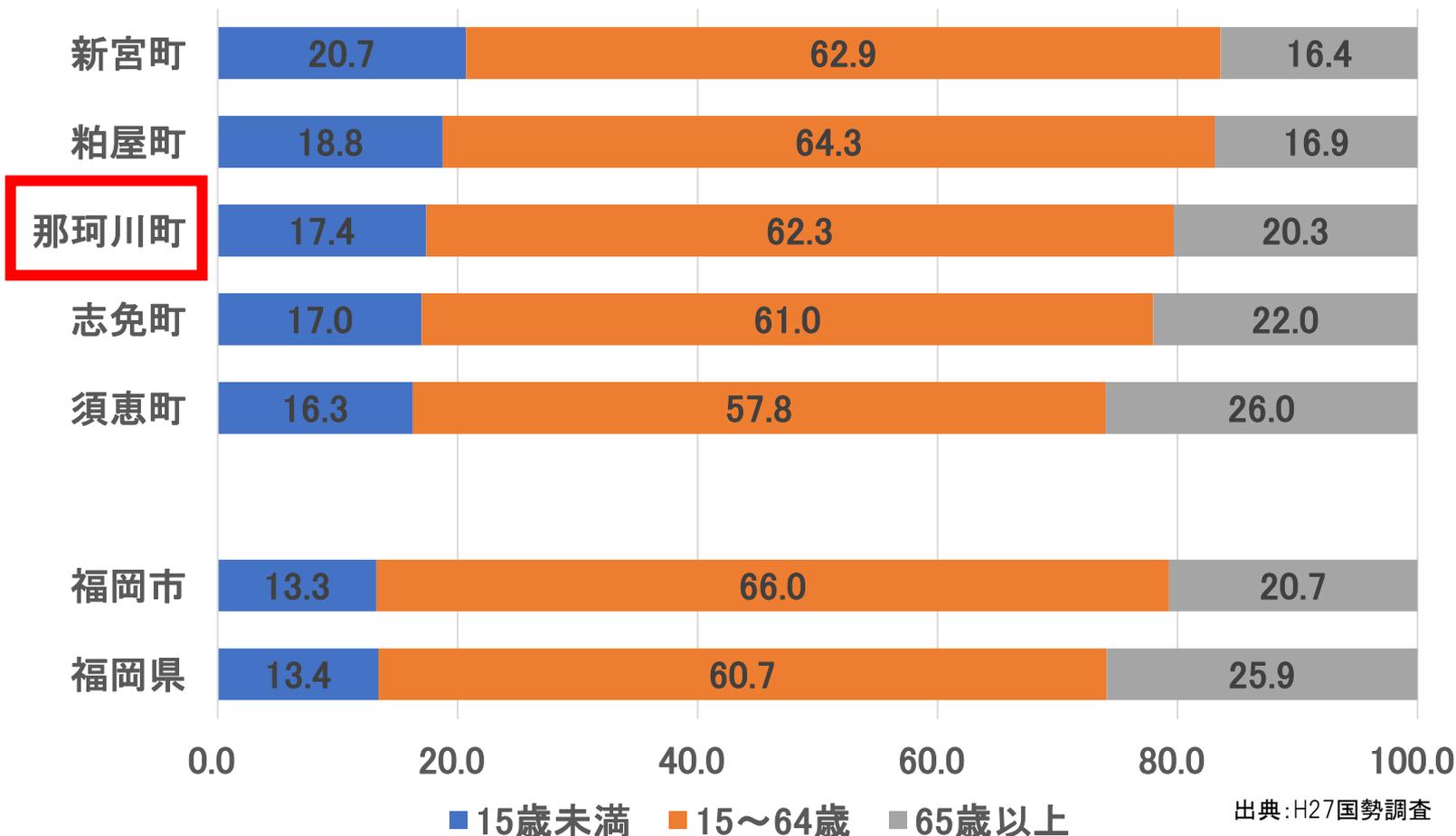
(3)年 齡 別 人 口 及 び 将 来 推 計

那珂川町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略 推計値



(3)年齢別人口及び将来推計

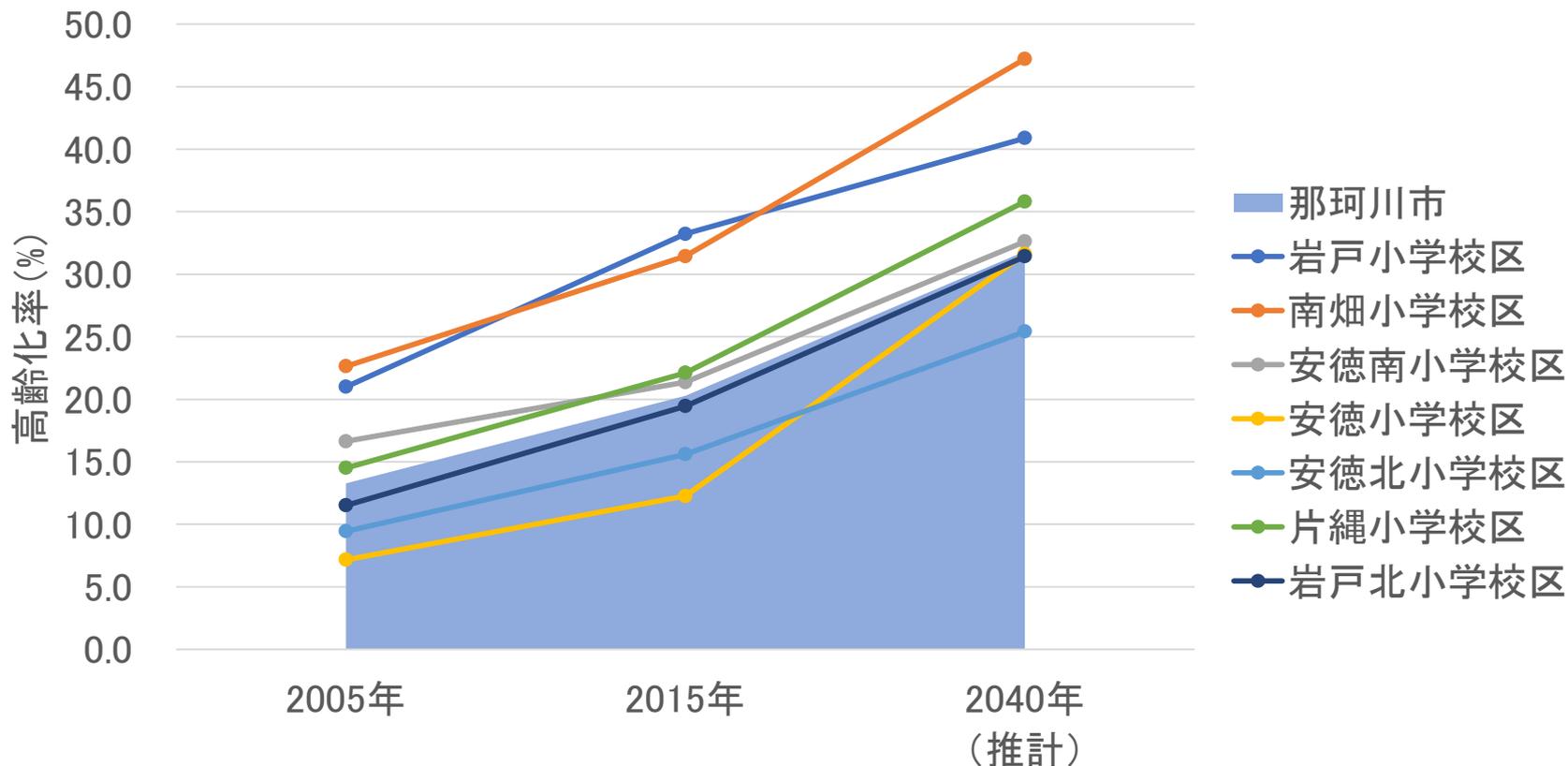
- 福岡県で3番目に幼年人口比率が高い



福岡県下幼年人口(15歳未満)の割合が高い上位5自治体

(3)年齢別人口及び将来推計 地域毎高齢化率

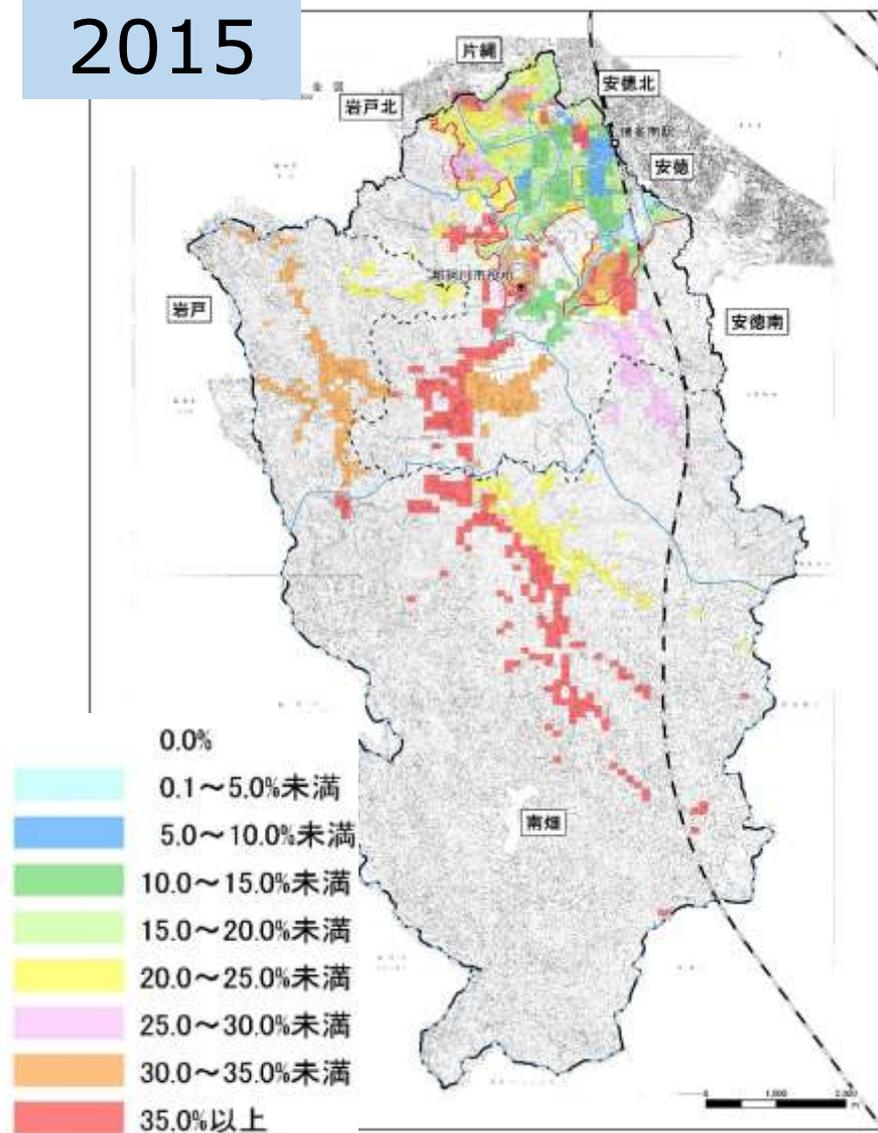
- 現在は市南部の高齢化率が30%以上となるなど特に高いが、将来的には市街地内の地域の高齢化率も高まる予想



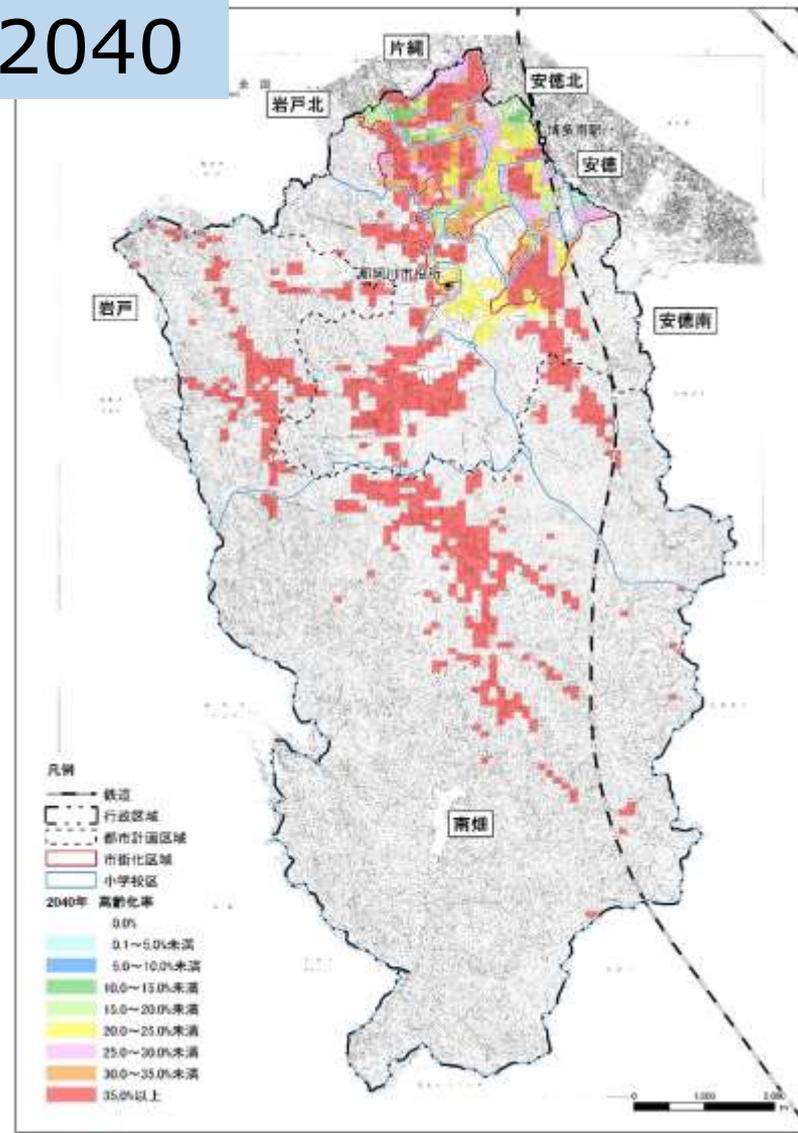
(3) 年齢別人口及び将来推計

高齢化率100mメッシュ

2015

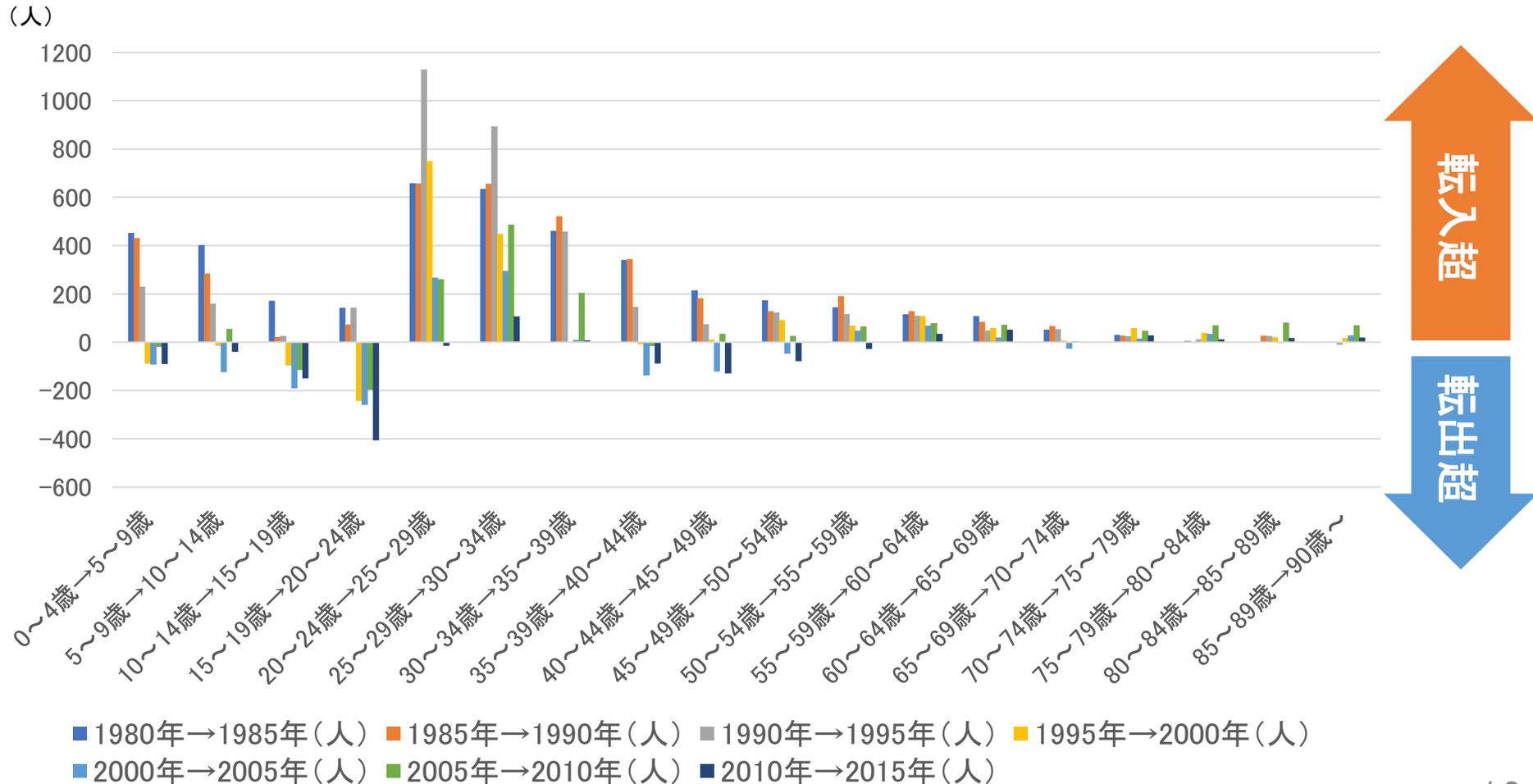


2040



(4) 転入・転出の状況

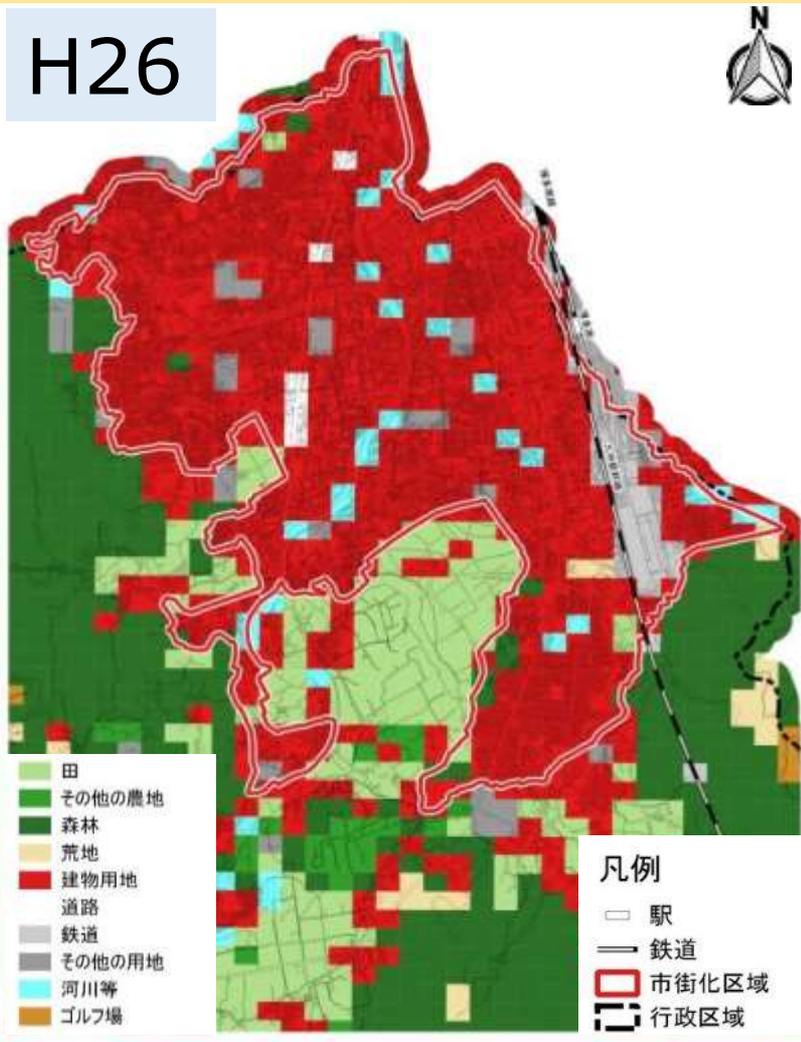
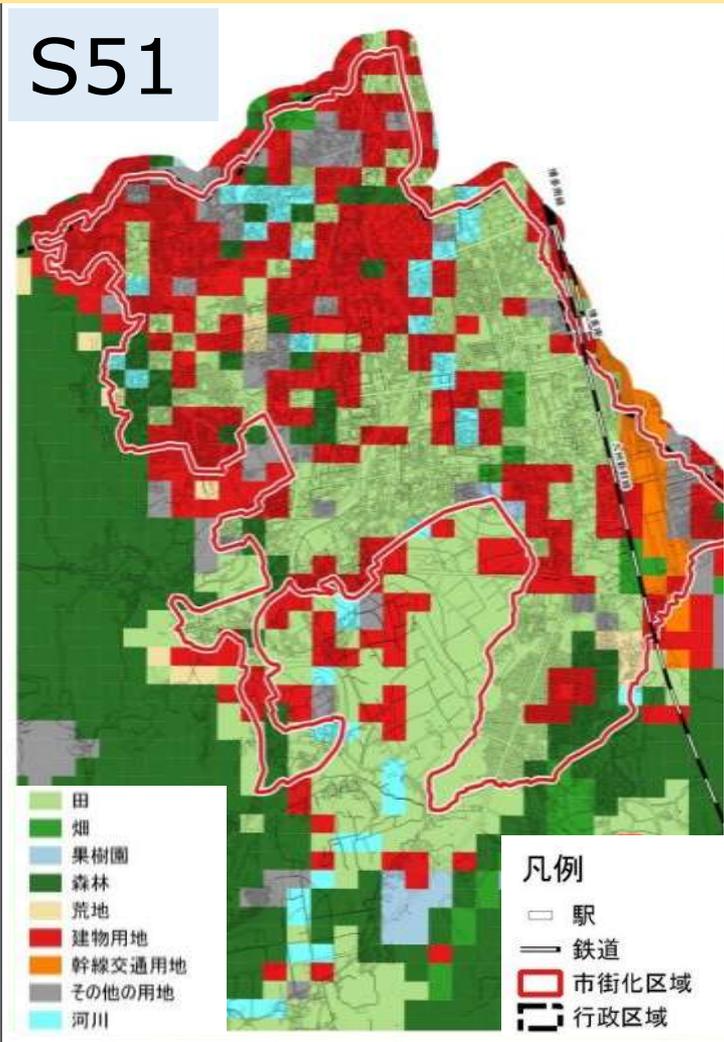
- 子育て世代の転入超過の割合が減り、若い世代は転出傾向に



■土地利用・開発動向

(1)土地利用の変遷

- 市街化区域内の宅地化が進む



土地利用状況の動向【拡大図】

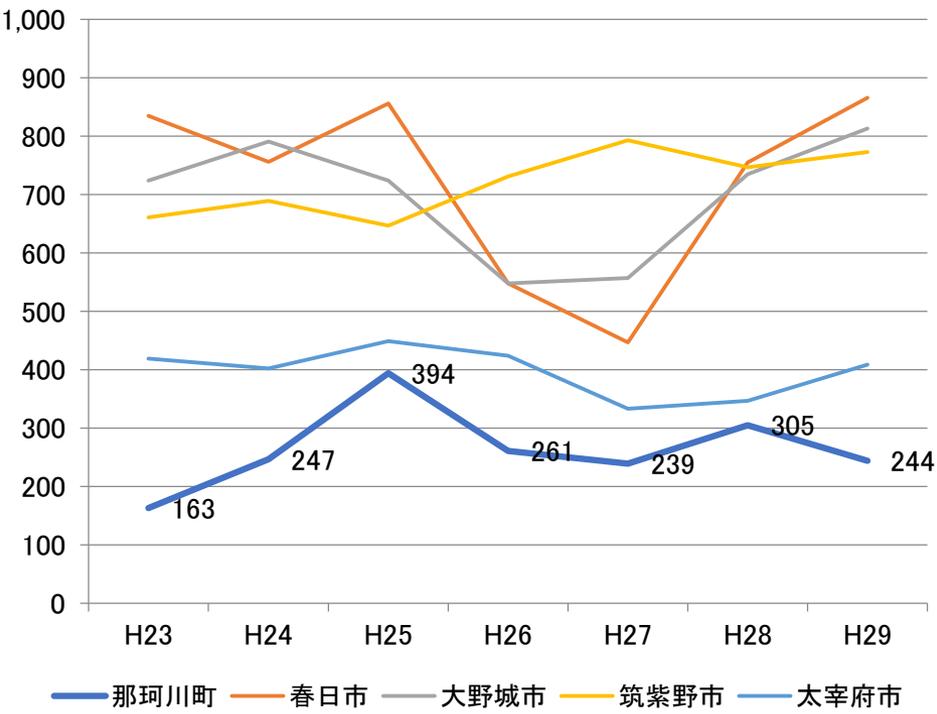
出典:国土数値情報(土地利用細分メッシュ)

■土地利用・開発動向

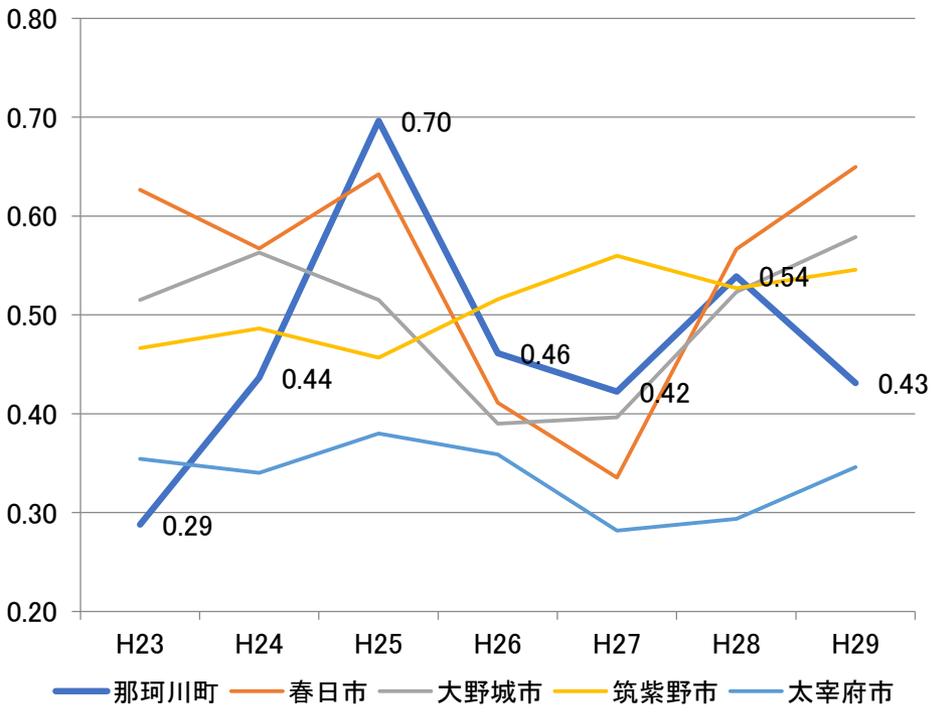
(2)市街地整備

● 新築住宅需要は堅調に推移

着工総数



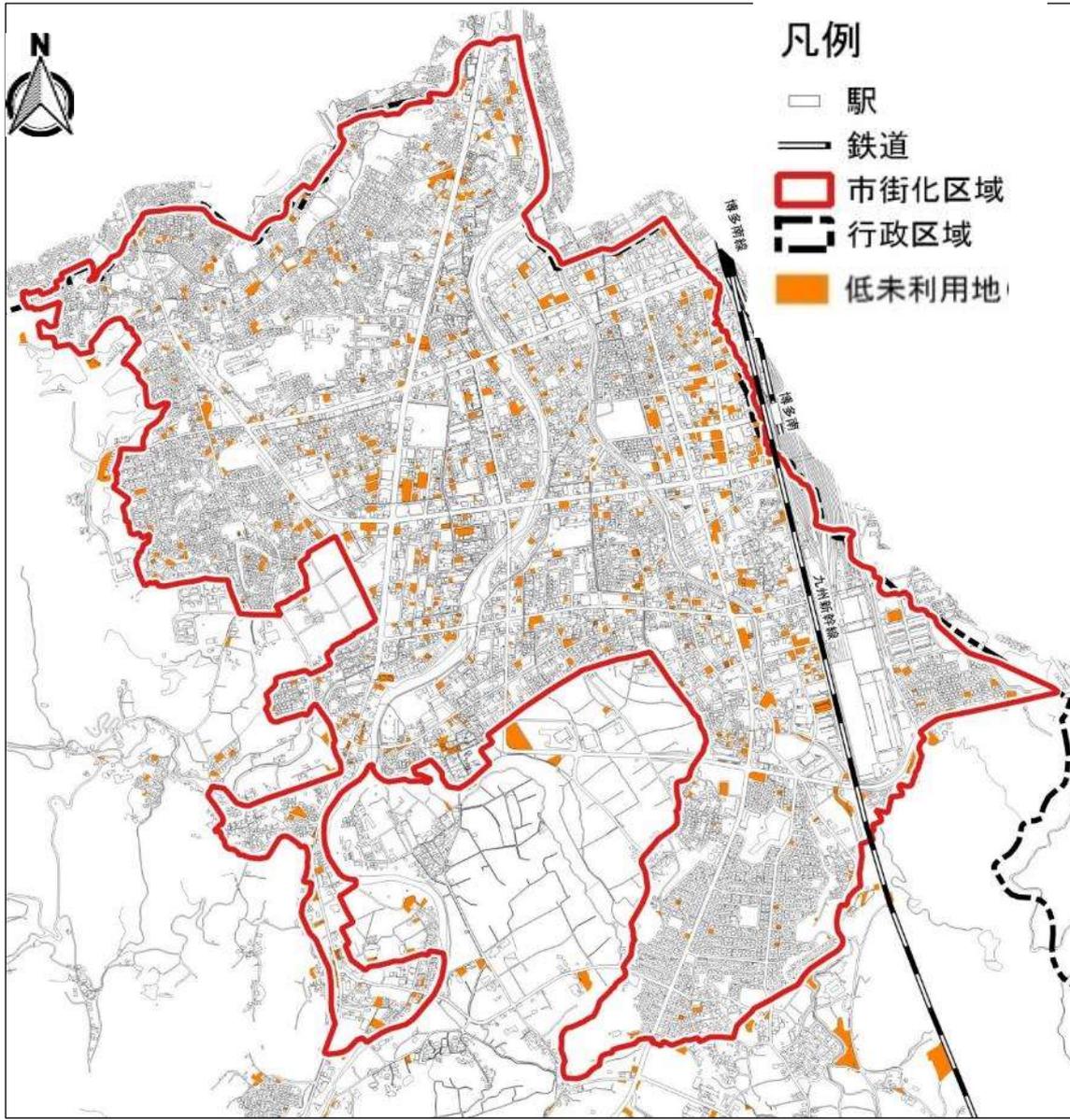
市街化区域ha当たり着工数



■土地利用・開発動向

(3)空き地の発生状況

- 市街化区域全体に低未利用地が点在

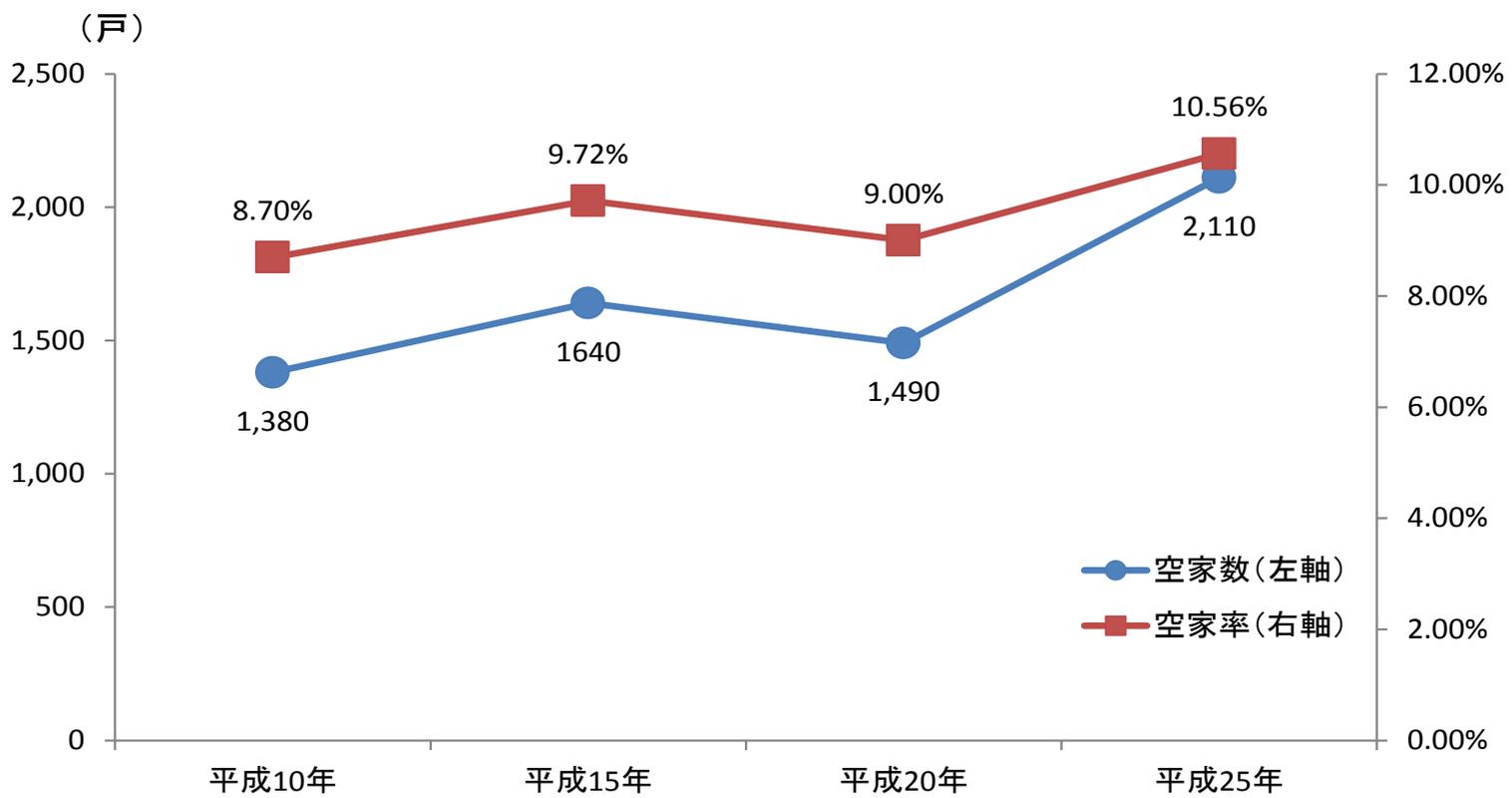


※平成29年：未利用宅地（未利用地、平面駐車場）を低未利用地として表記しています。
（事務所・マンション等の平面駐車場も含まれています）

図 中心市街地における低未利用地の発生状況(平成29年) 出典：都市計画基礎調査

(4)空家の発生状況

- 空家は増加傾向の推計

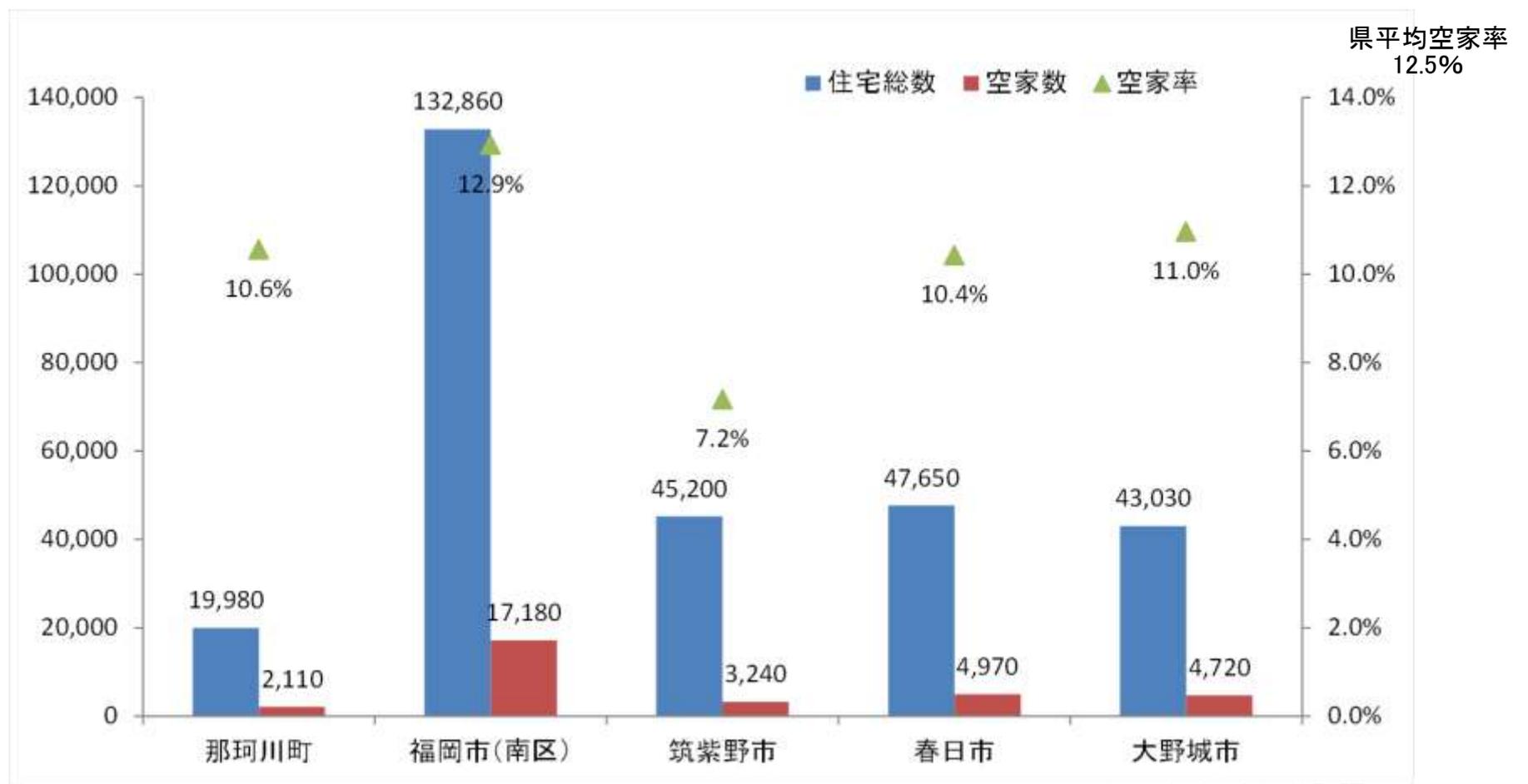


出典:住宅・土地統計調査

図 空家数および空家率の動向

■土地利用・開発動向

- 県平均に比べると空き家率は低い



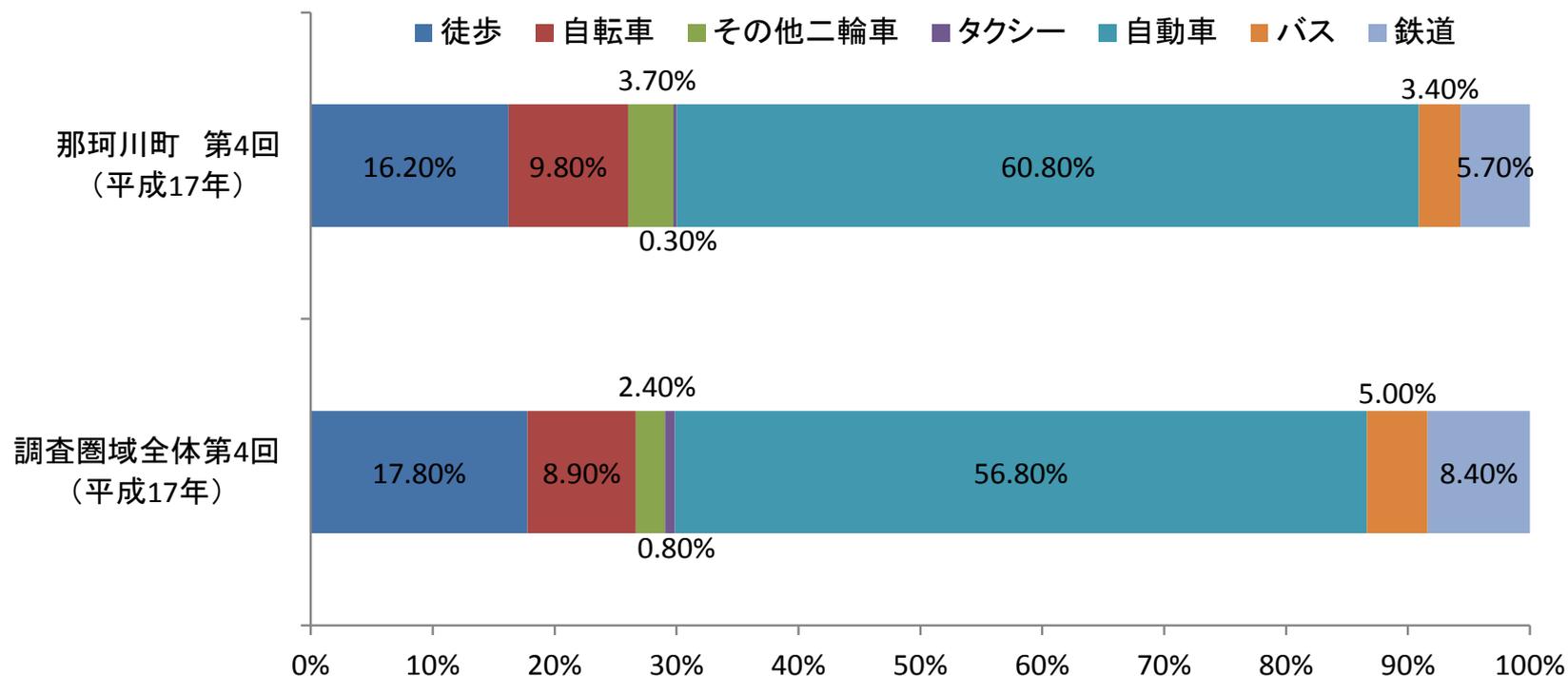
出典:住宅・土地統計調査

図 本市周辺市町との空家数および空家率の比較

■都市交通

(1)住民の交通行動の動向

- 自動車分担率は約61%

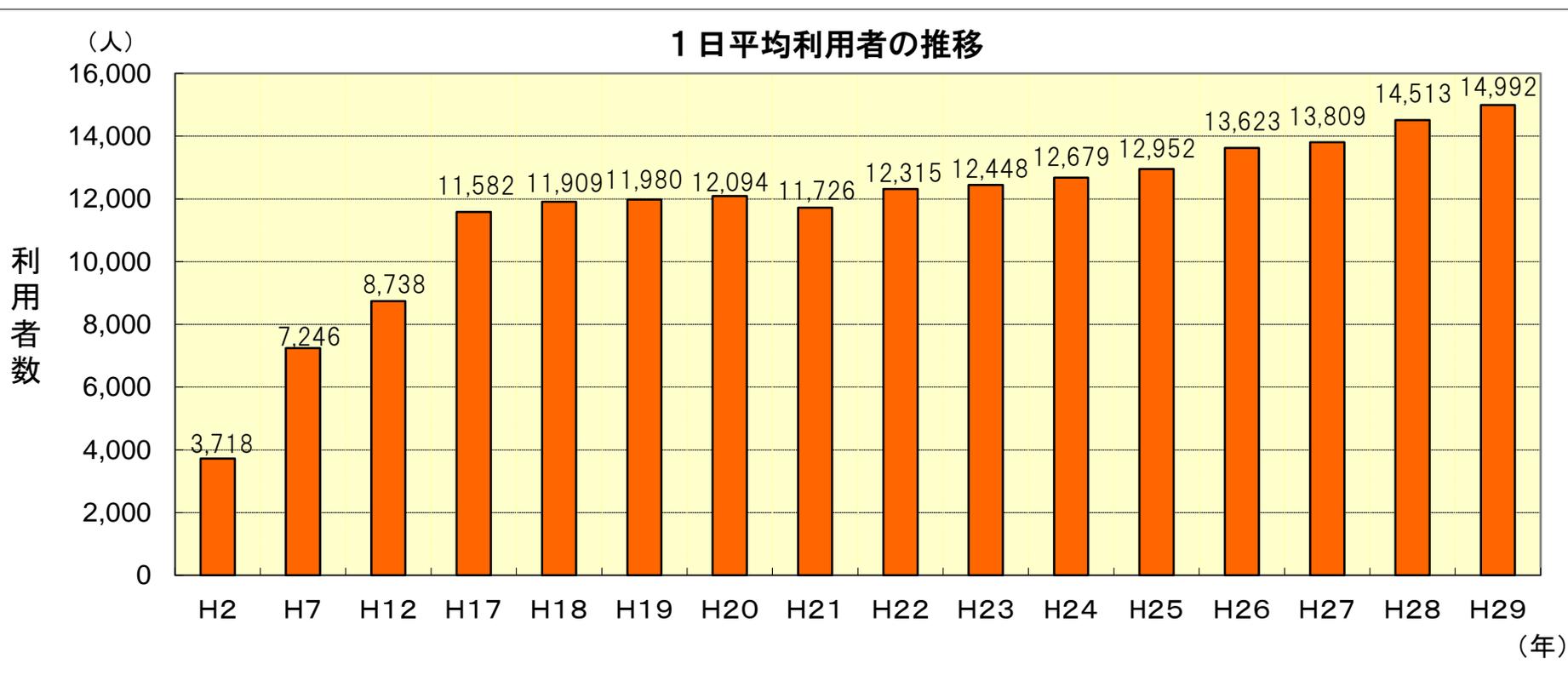


出典:第4回北部九州圏総合都市交通体系調査

図 代表交通手段別分担率

(2)公共交通利用者の推移

- 博多南線の利用者数は増加傾向

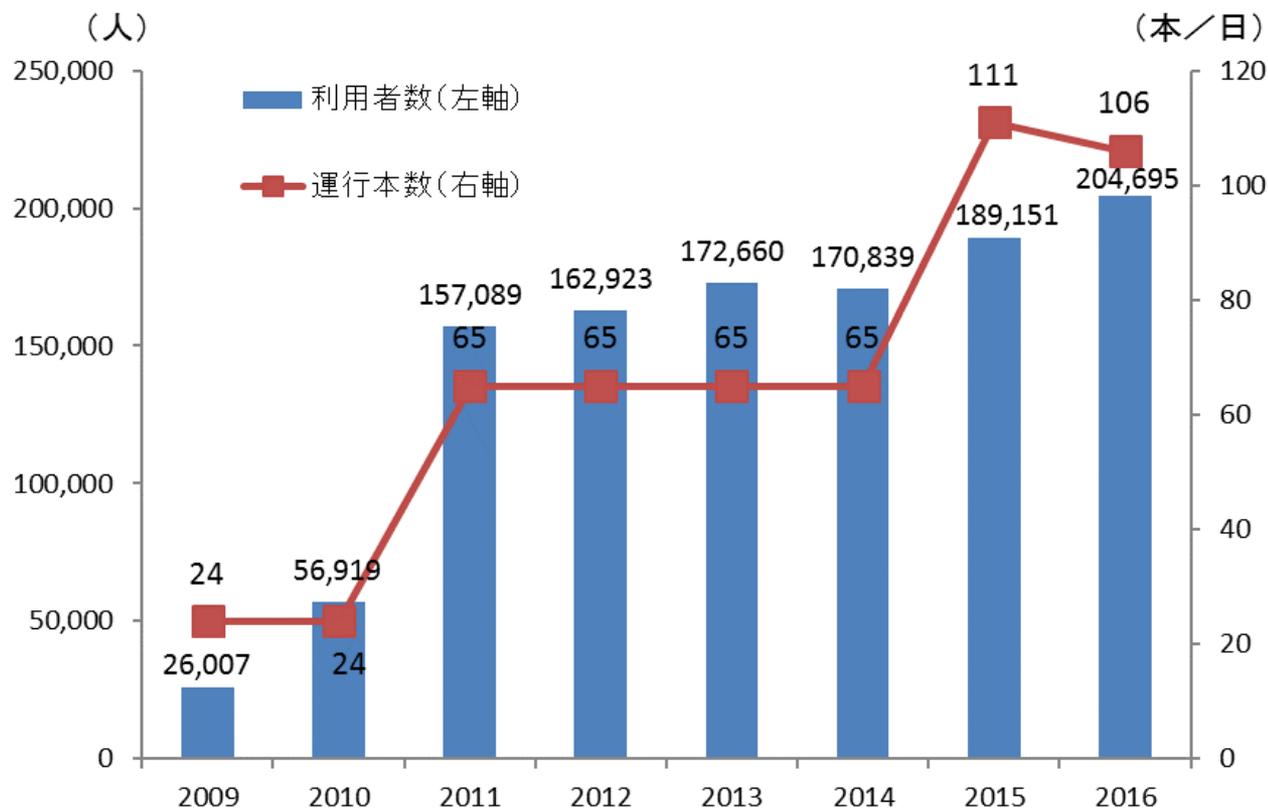


出典:JR西日本資料

図 博多南線利用者数の推移

(2)公共交通利用者の推移

- かわせみバスの利用者数は増加傾向

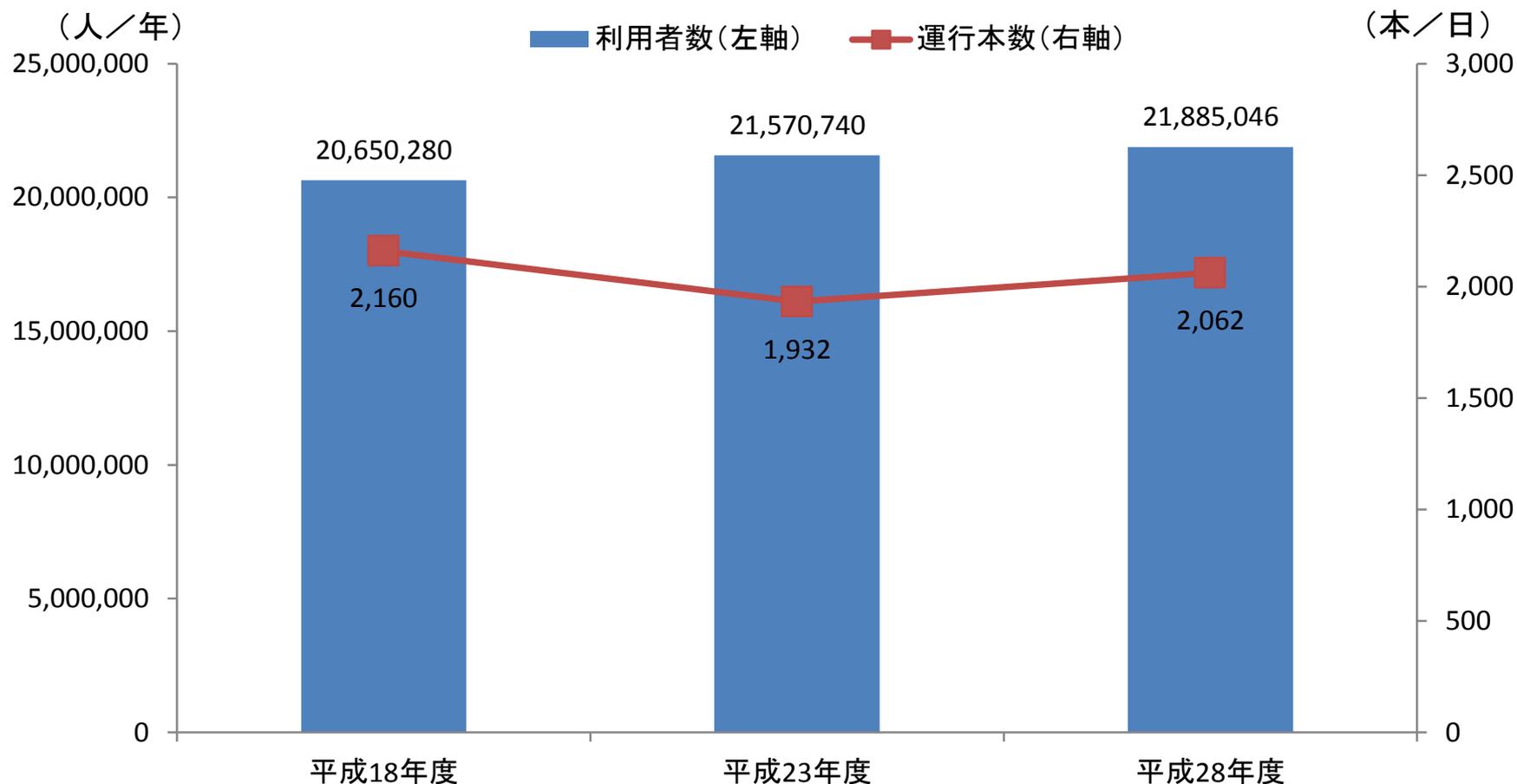


出典: 庁内資料(かわせみバス運行本数の推移)

図 かわせみバスの利用者数及び運行本数の推移

(2)公共交通利用者の推移

- 西鉄バスの利用者数は増加傾向

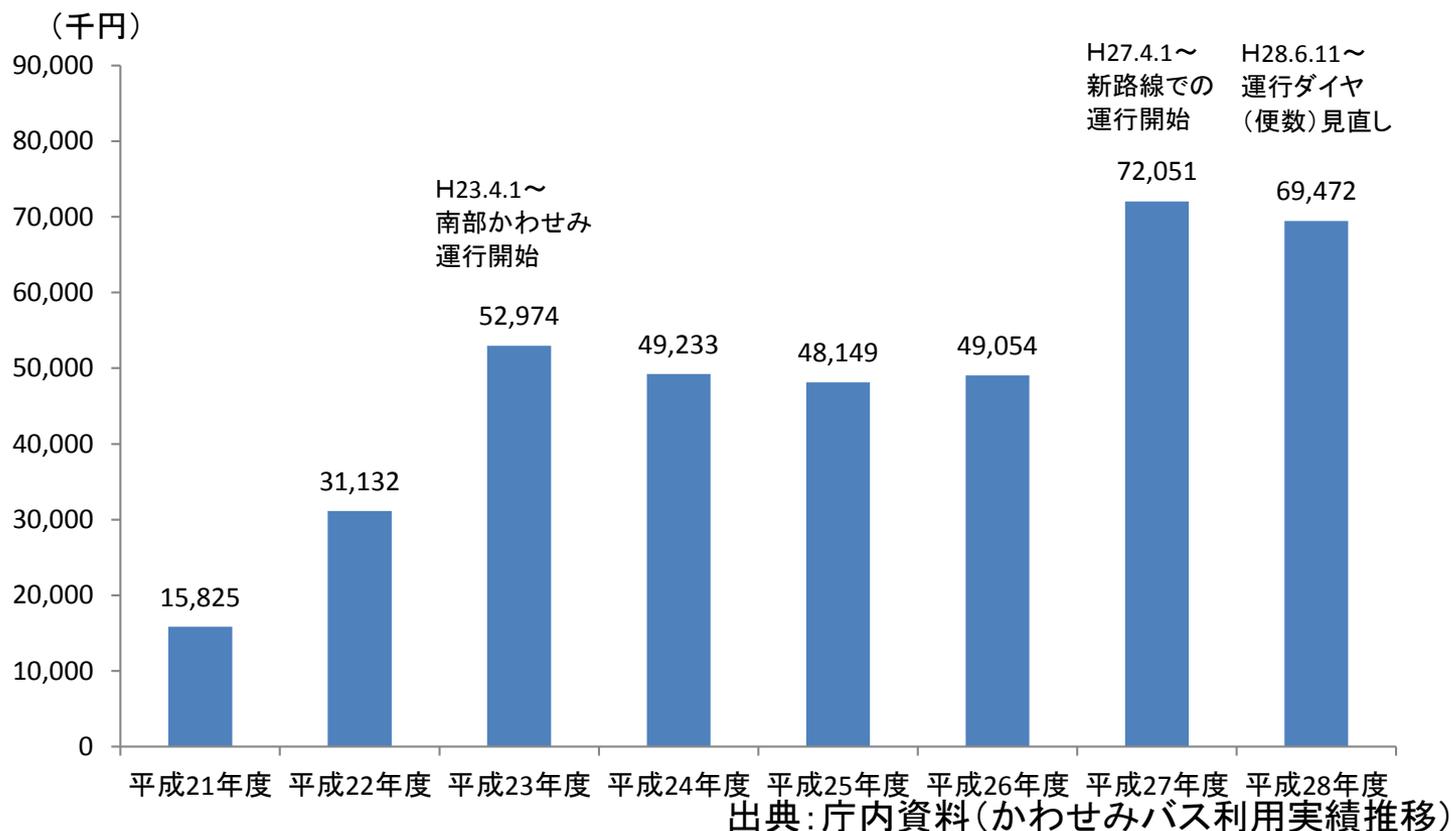


出典: 庁内資料(西鉄バスの運行状況)

図 西鉄バスの利用者数及び運行本数の推移

(3)路線バス赤字補助額の推移

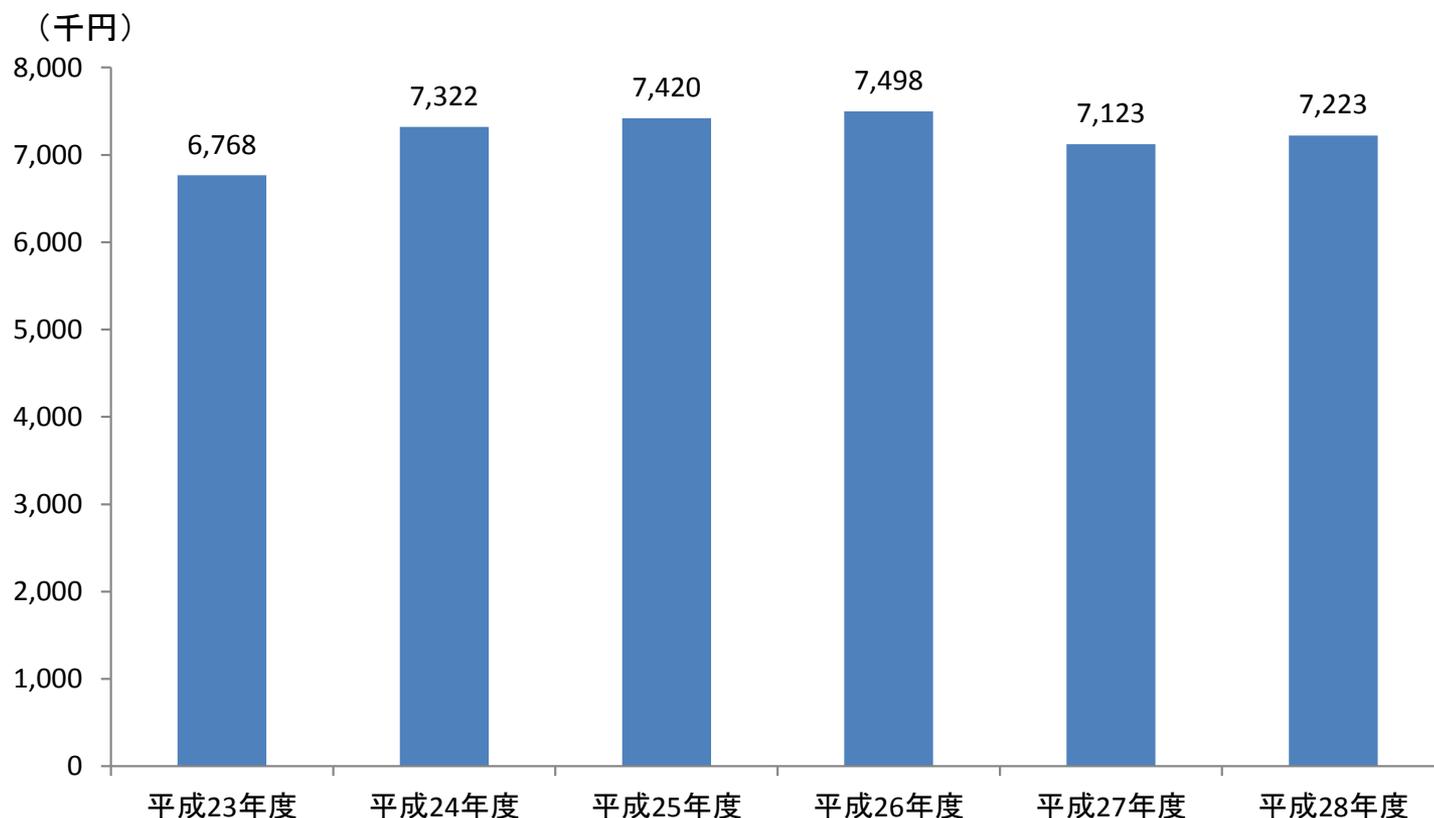
- かわせみバスの運行補助額は路線拡充に伴い増加傾向



かわせみバス運行補助額の推移

(3)路線バス赤字補助額の推移

- 路線バスの赤字補助額は一定程度で推移



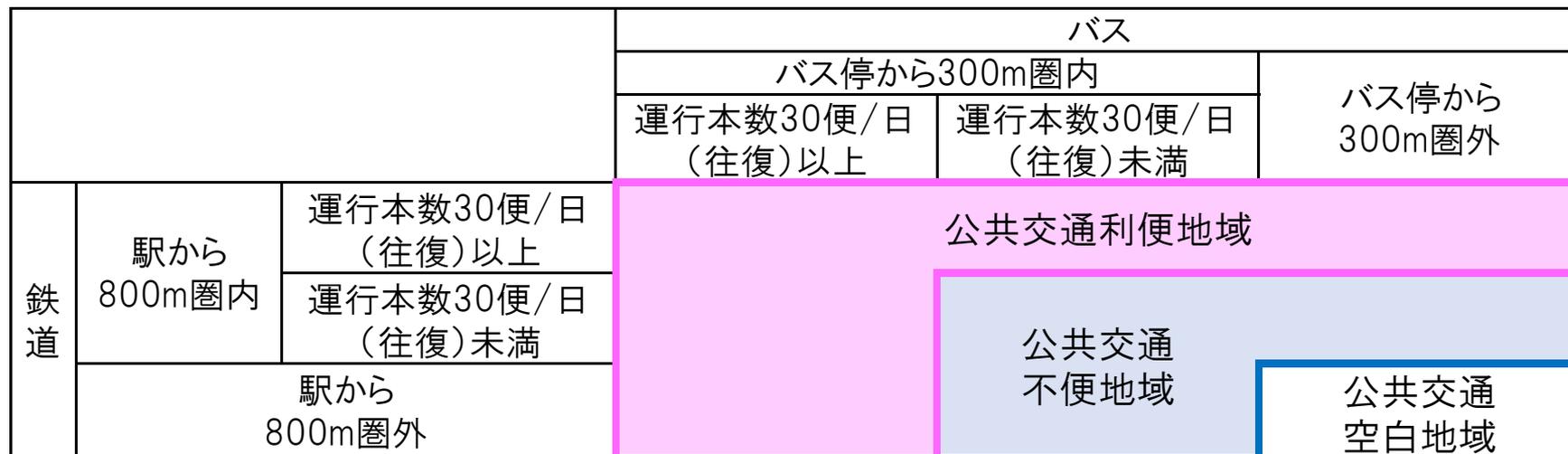
出典:庁内資料(路線バス補助金額実績一覧)

西鉄バス運行補助額(市ノ瀬～那珂川営業所)の推移

■都市交通

(4)公共交通の利便性

- 約71%の市民が公共交通の利便性が比較的高い地域に居住



小学校 区域	平成27年 人口	平成27年 高齢化率	公共交通利便 地域人口率	公共交通不便 地域人口率	公共交通空白 地域人口率
安徳	5,377	12.3%	97.3%	2.6%	0.1%
安徳北	11,278	15.6%	70.5%	29.5%	0.0%
安徳南	7,704	21.4%	59.5%	37.8%	2.7%
岩戸	4,719	33.2%	35.9%	55.3%	8.7%
岩戸北	10,722	19.4%	89.2%	8.7%	2.2%
片縄	8,413	22.1%	78.0%	21.0%	1.0%
南畑	1,791	31.4%	0.0%	80.9%	19.1%
全体	50,004	20.3%	71.2%	26.3%	2.6%

■都市交通

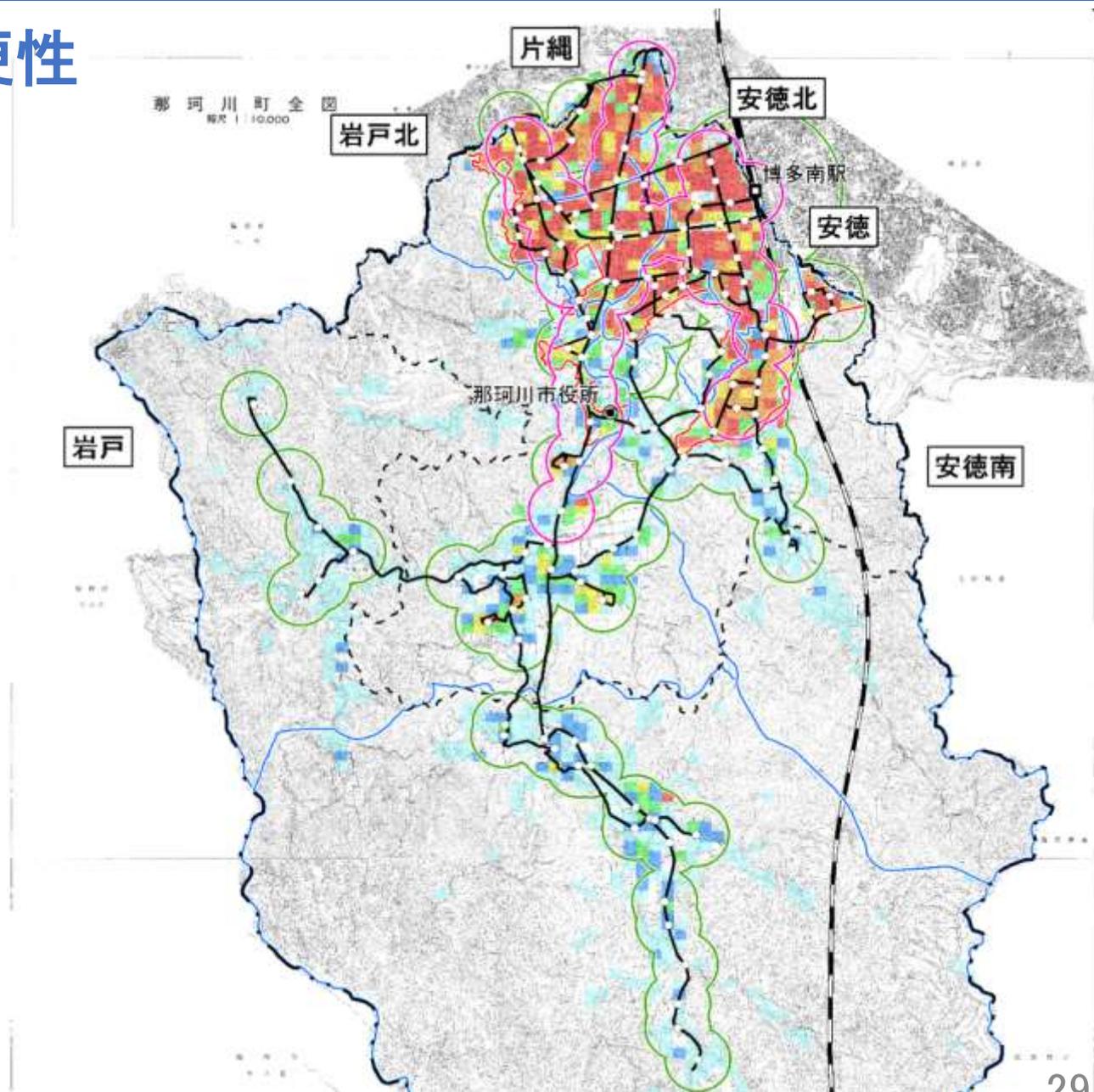
(4)公共交通の利便性

凡例

- 鉄道
- 行政区域
- - - 都市計画区域
- 市街化区域
- 小学校区
- バス停
- バス路線
- 公共交通利便地域
- 公共交通不便地域

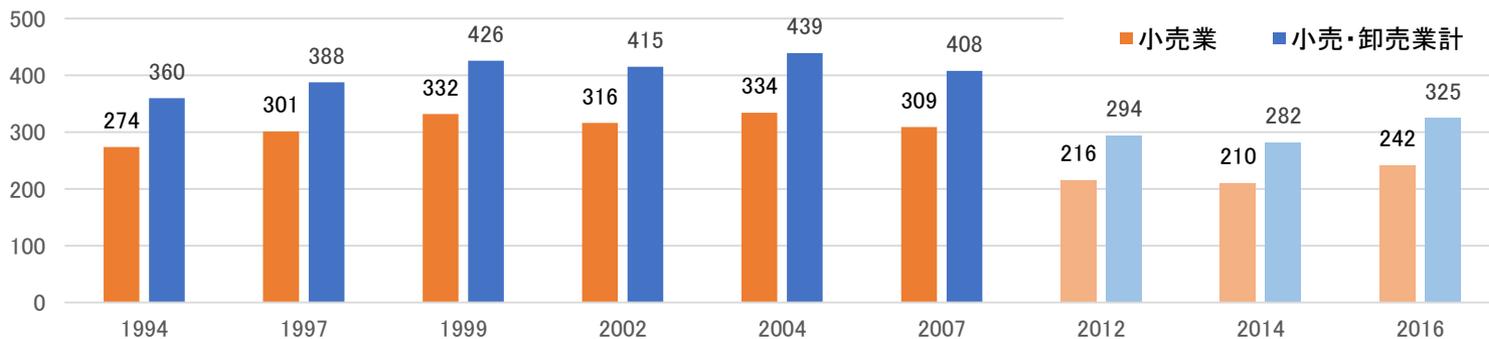
2015年 人口密度

- 0.01～9.99人/ha
- 10.00～19.99人/ha
- 20.00～39.99人/ha
- 40.00～59.99人/ha
- 60.00～79.99人/ha
- 80.00人/ha以上

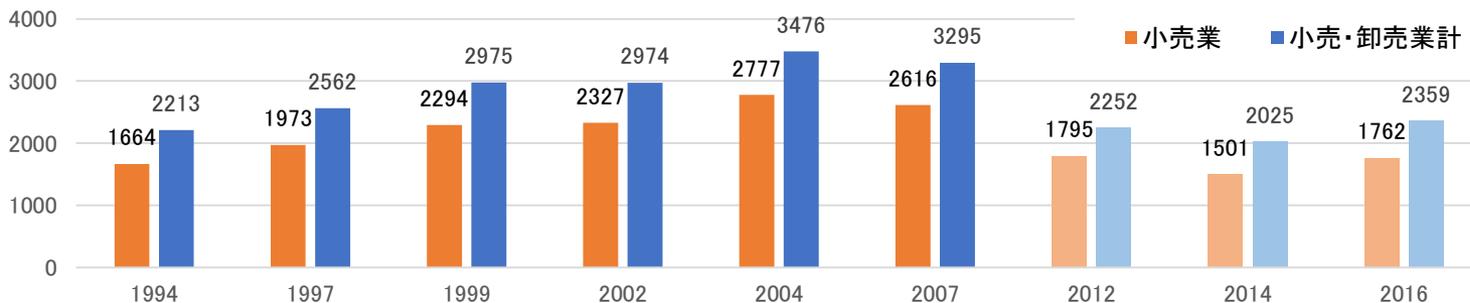


● 小売業・卸売業の事業所数等は近年も増加傾向

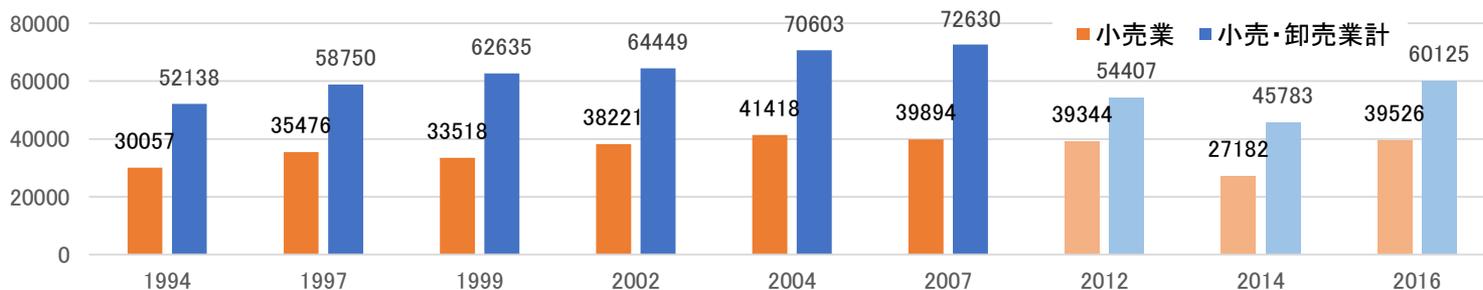
事業所数



従業者数

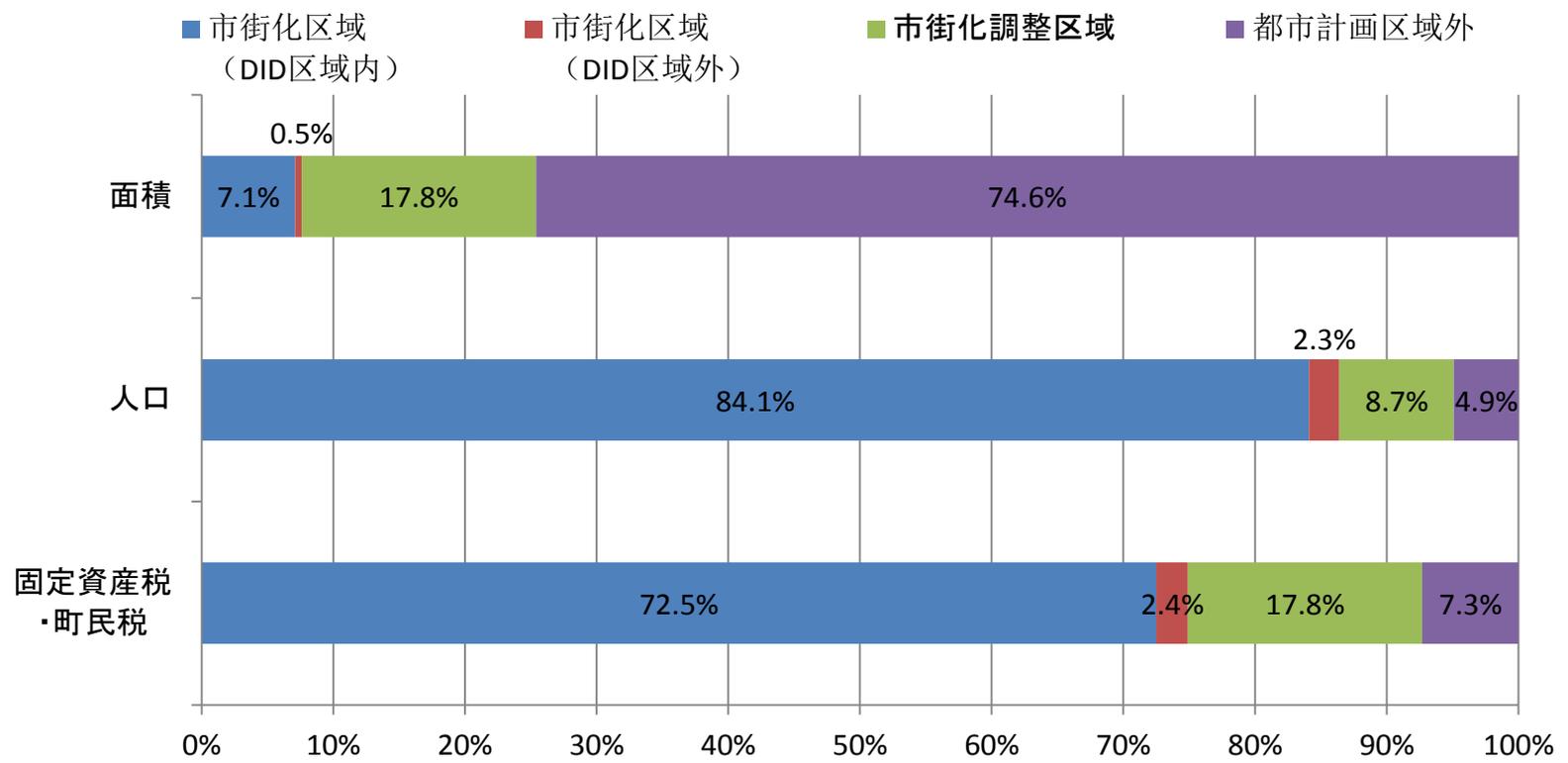


商品販売額



(1) 税収の状況

● 市街化区域における税収の割合が高い

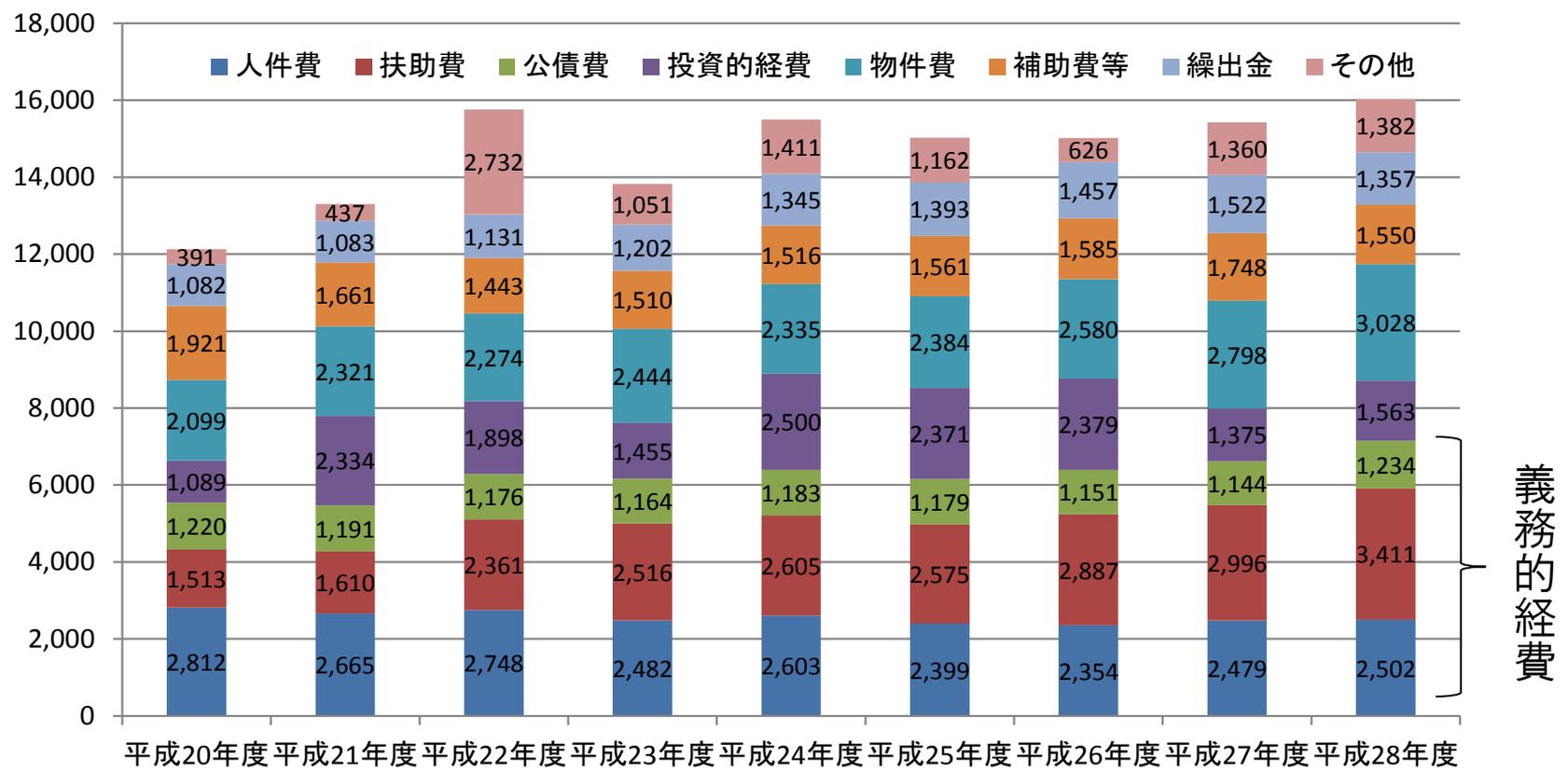


出典：面積【那珂川市HP都市計画区域面積 ただし、DID面積は国土数値情報(H22DID集中地区)より算出】
 人口【住民基本台帳(H29/3/31時点)より算出】
 固定資産税【那珂川町のお財布より税収実績を基に建物用地面積、地価公示を用いて市街化区域(DID区域内、DID区域外)と市街化調整区域、都市計画区域外に按分して算出】
 町民税【那珂川町のお財布より税収実績を基に人口割合を用いて市街化区域(DID区域内、DID区域外)と市街化調整区域、都市計画区域外に按分して算出】

図 固定資産税・町民税の区域別割合試算

(2) 歳出構造

● 扶助費(高齢者福祉や児童手当等)が増加傾向

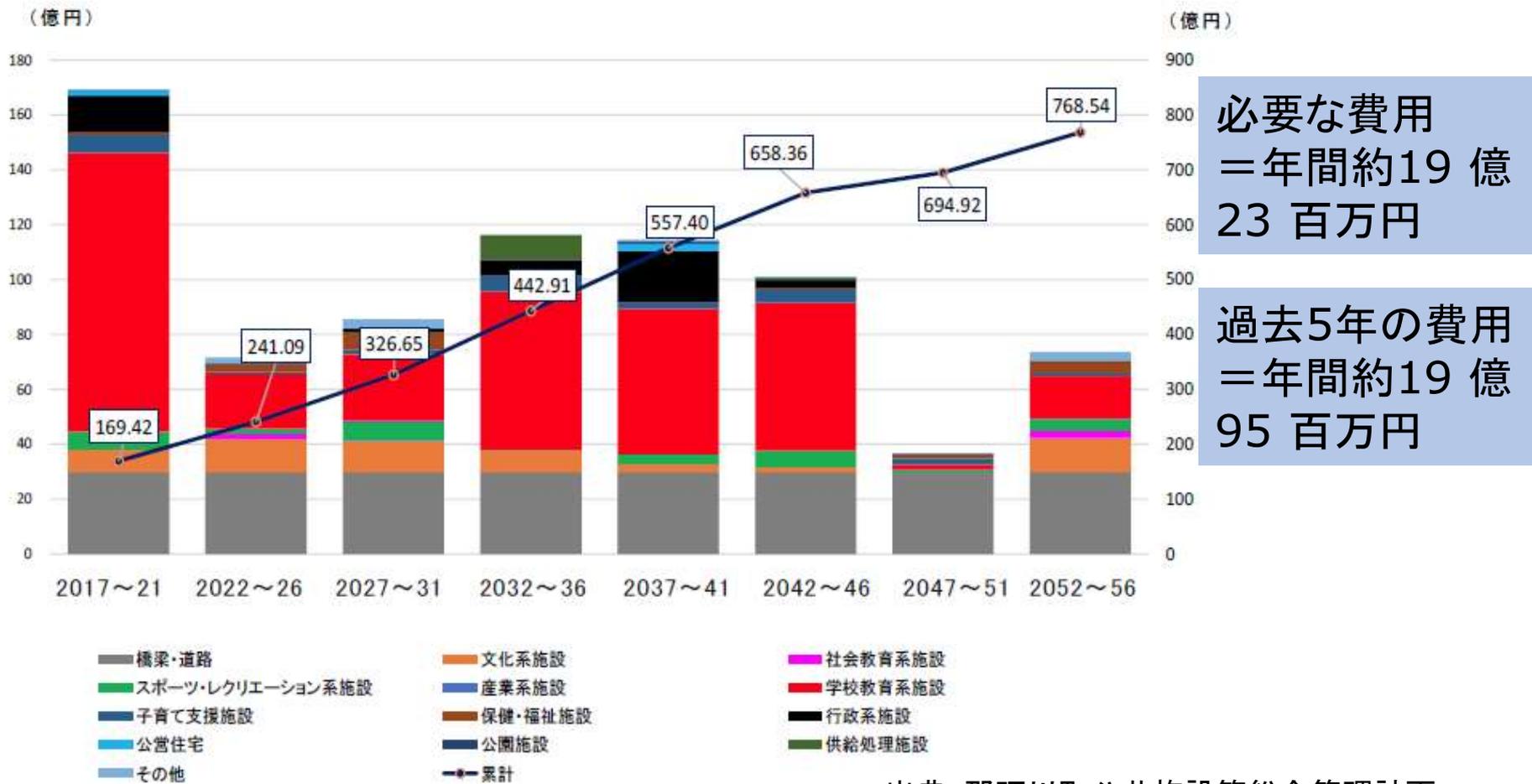


出典: 那珂川町のお財布

図 一般会計の歳出決算状況

(3) 公共施設の維持に係る費用予測

● 公共施設の更新に今後40年間で約769億円必要

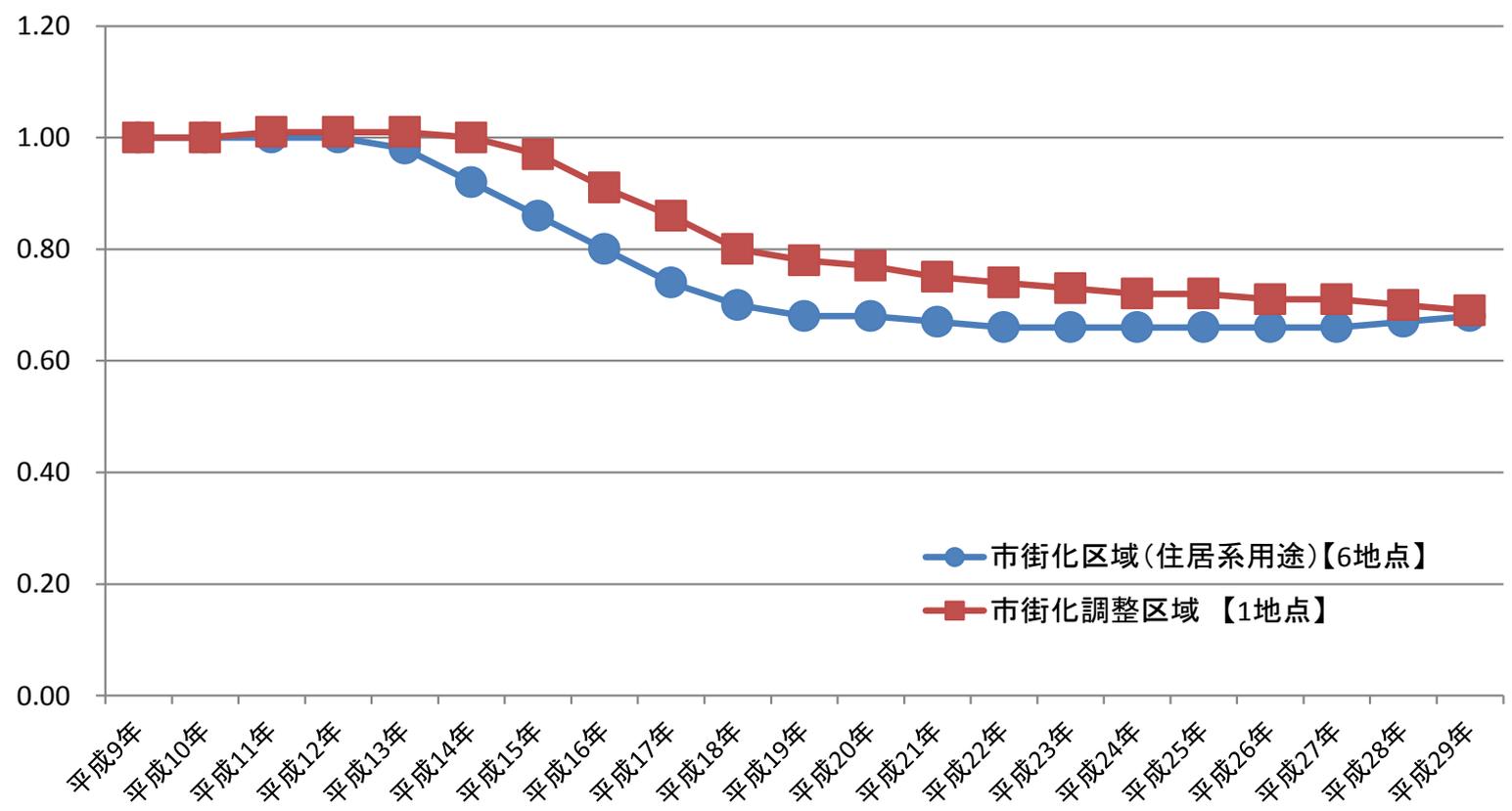


出典: 那珂川町公共施設等総合管理計画

図 予防保全型管理による大規模改修を実施した場合の費用予測

(4) 地価

- 地価は近年下げ止まり傾向



出典：地価公示

図 区域別の地価の推移

■災害

- 災害危険箇所周辺においても人口増加地区がある

凡例

— 鉄道

[] 行政区域

市街化区域

小学校区

人口増減(2005~2015年)

40人/ha以上減少

20人/ha以上減少

20人/ha未満減少

増減なし

20人/ha未満増加

20人/ha以上増加

40人/ha以上増加

想定浸水深

0.5m未満

0.5~1.0m未満

1.0~2.0m未満

2.0m以上

土砂災害危険箇所

土石流危険溪流

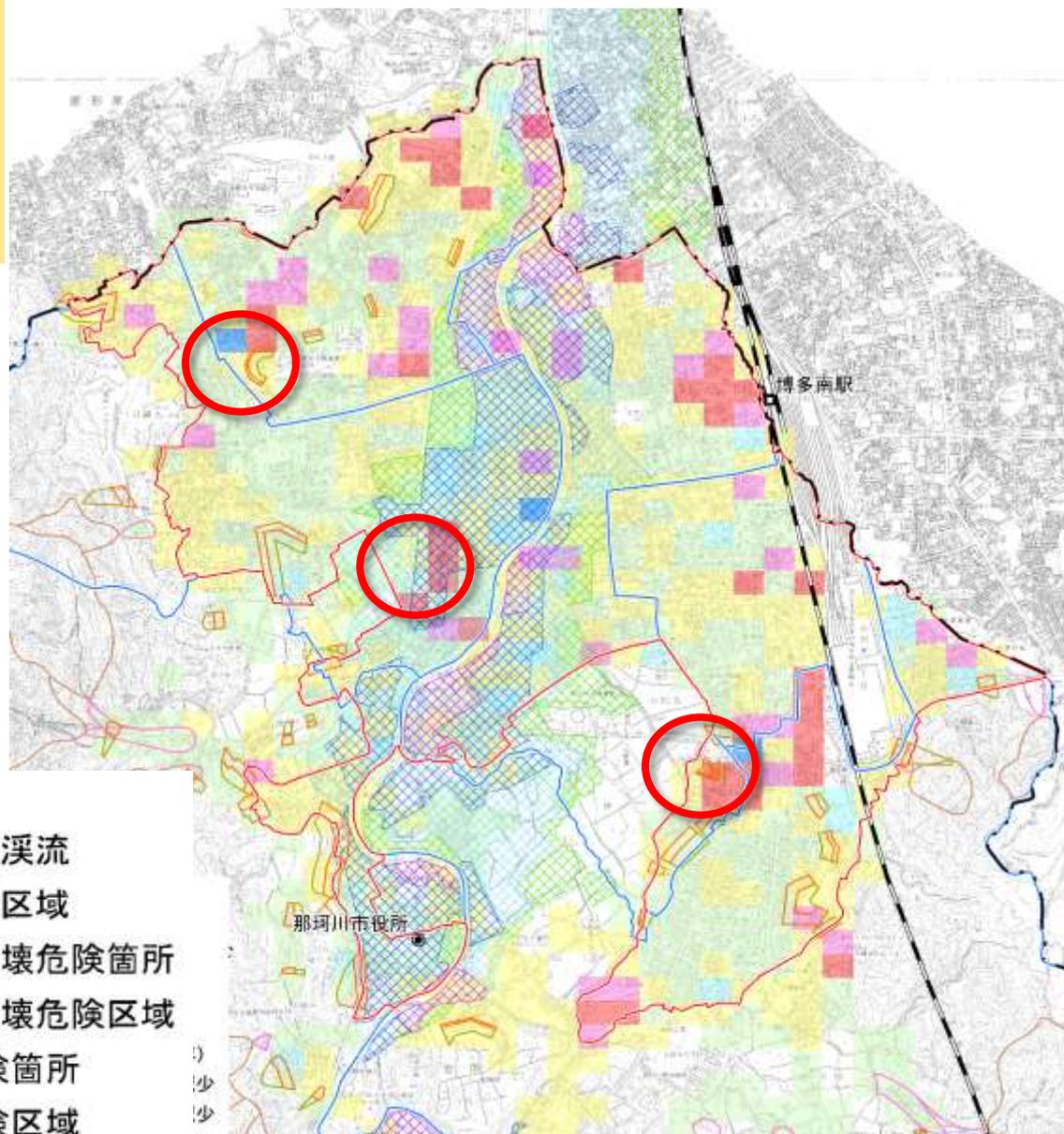
土石流危険区域

急傾斜地崩壊危険箇所

急傾斜地崩壊危険区域

地すべり危険箇所

地すべり危険区域



生活利便性

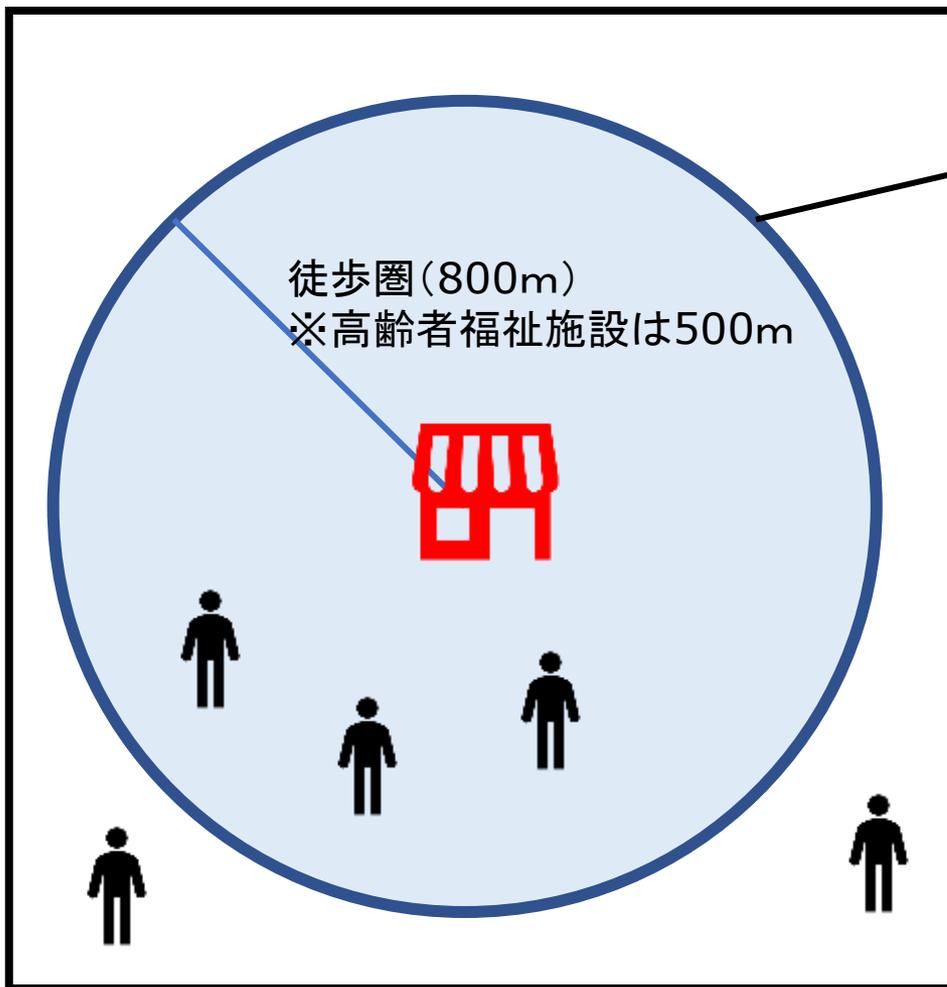
(施設の徒歩圏カバー率)

- 商業施設、コミュニティ施設、子ども・子育て支援施設、障がい者福祉施設の徒歩圏人口カバー率は9割以上と充足している

小学校区域	平成27年人口	平成27年高齢化率	各施設の徒歩圏人口カバー率											
			医療施設	小児科	高齢者福祉施設	商業施設	金融施設	公共施設	レクリエーション施設	コミュニティ施設	子ども・子育て支援施設	教育施設	障がい者福祉施設	
安徳	5,377	12.3%	100.0%	100.0%	58.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
安徳北	11,278	15.6%	99.9%	99.8%	93.5%	99.9%	99.9%	95.6%	100.0%	100.0%	100.0%	91.1%	91.3%	
安徳南	7,704	21.4%	71.7%	58.7%	51.9%	75.5%	77.2%	85.0%	88.9%	98.7%	83.6%	80.5%	84.6%	
岩戸	4,719	33.2%	11.1%	13.6%	46.6%	85.2%	41.0%	34.8%	45.1%	94.2%	47.2%	43.8%	87.3%	
岩戸北	10,722	19.4%	98.5%	81.6%	53.5%	100.0%	83.2%	91.7%	86.1%	100.0%	87.6%	96.0%	100.0%	
片縄	8,413	22.1%	100.0%	51.3%	62.8%	100.0%	61.6%	23.3%	41.2%	100.0%	96.1%	76.5%	100.0%	
南畑	1,791	31.4%	49.3%	57.4%	0.0%	66.3%	51.3%	26.1%	24.4%	86.2%	61.8%	57.6%	71.6%	
那珂川市	50,004	20.3%	85.1%	74.4%	58.1%	93.6%	79.1%	73.2%	77.5%	98.8%	90.4%	84.9%	93.4%	

生活利便性

※施設カバー率の考え方



A: 施設のカバー人口
各施設の徒歩圏内に居住
する人口

B: 各地域の人口

$$A \div B = \text{カバー率}$$

生活利便性

医療施設の分布状況と徒歩圏

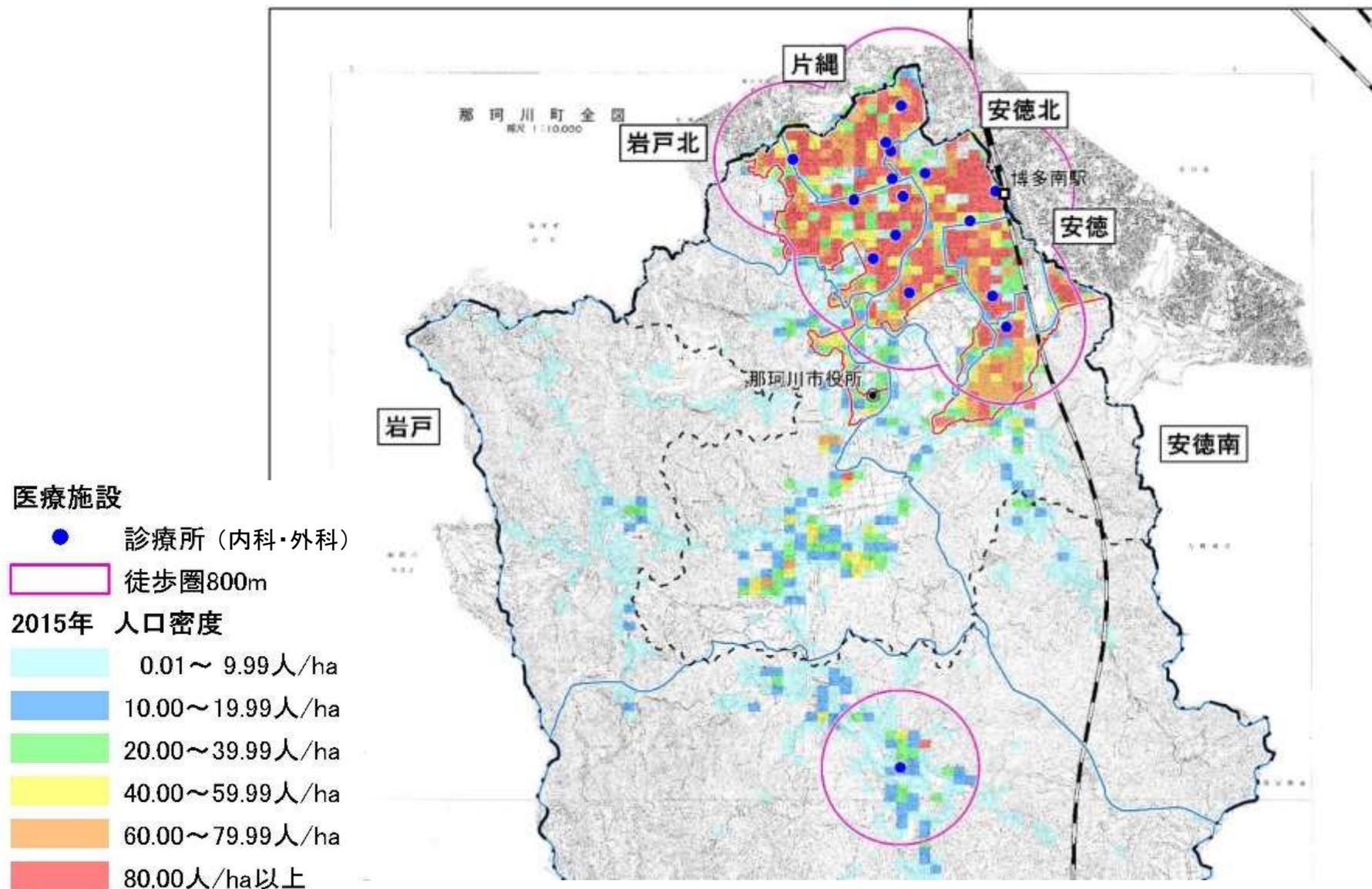


図 医療施設の徒歩圏と人口密度

高齢者福祉施設(通所系)の分布状況と徒歩圏

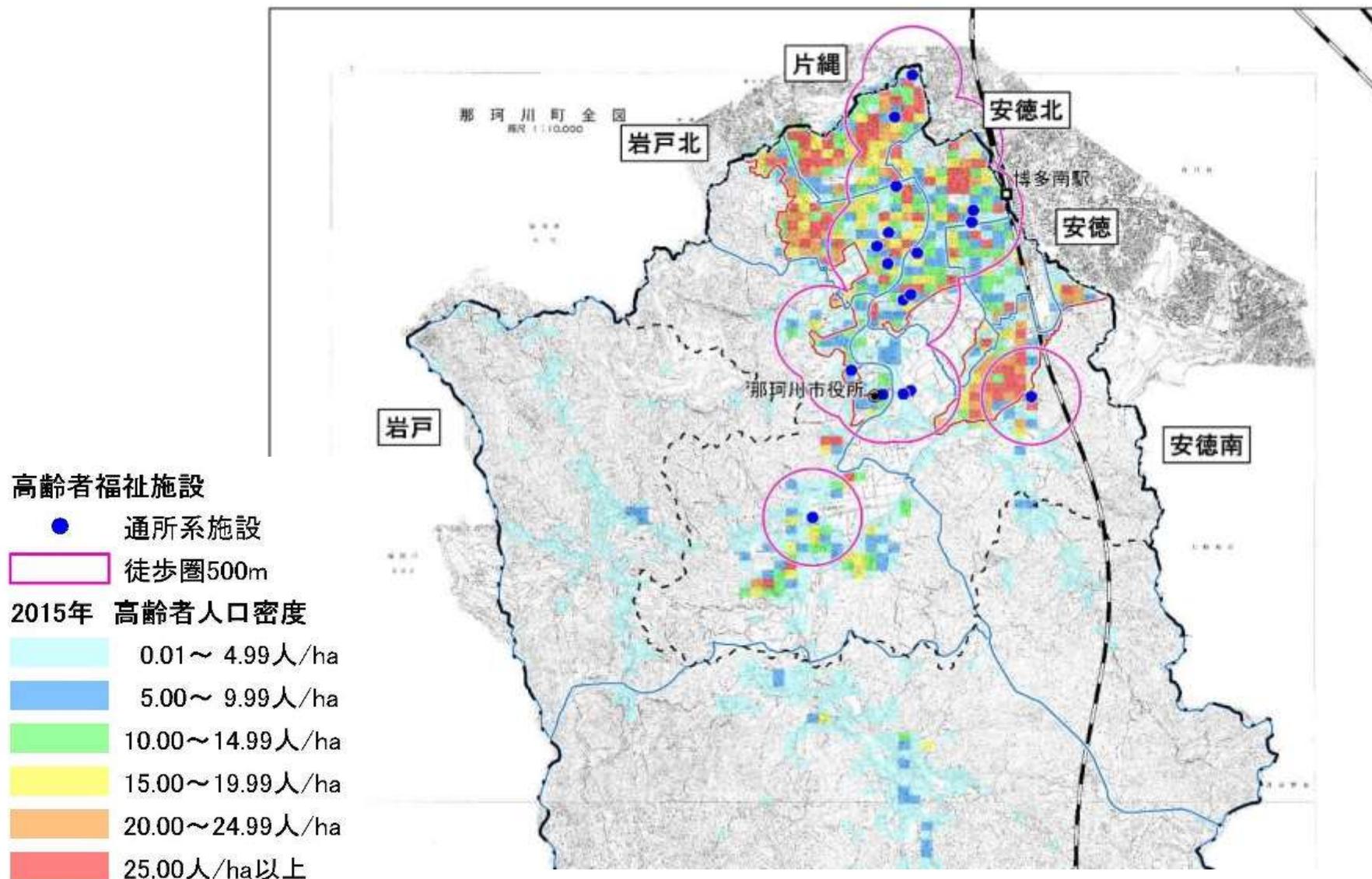


図 高齢者福祉施設(通所系)の徒歩圏と65歳以上人口密度

商業施設の分布状況と徒歩圏

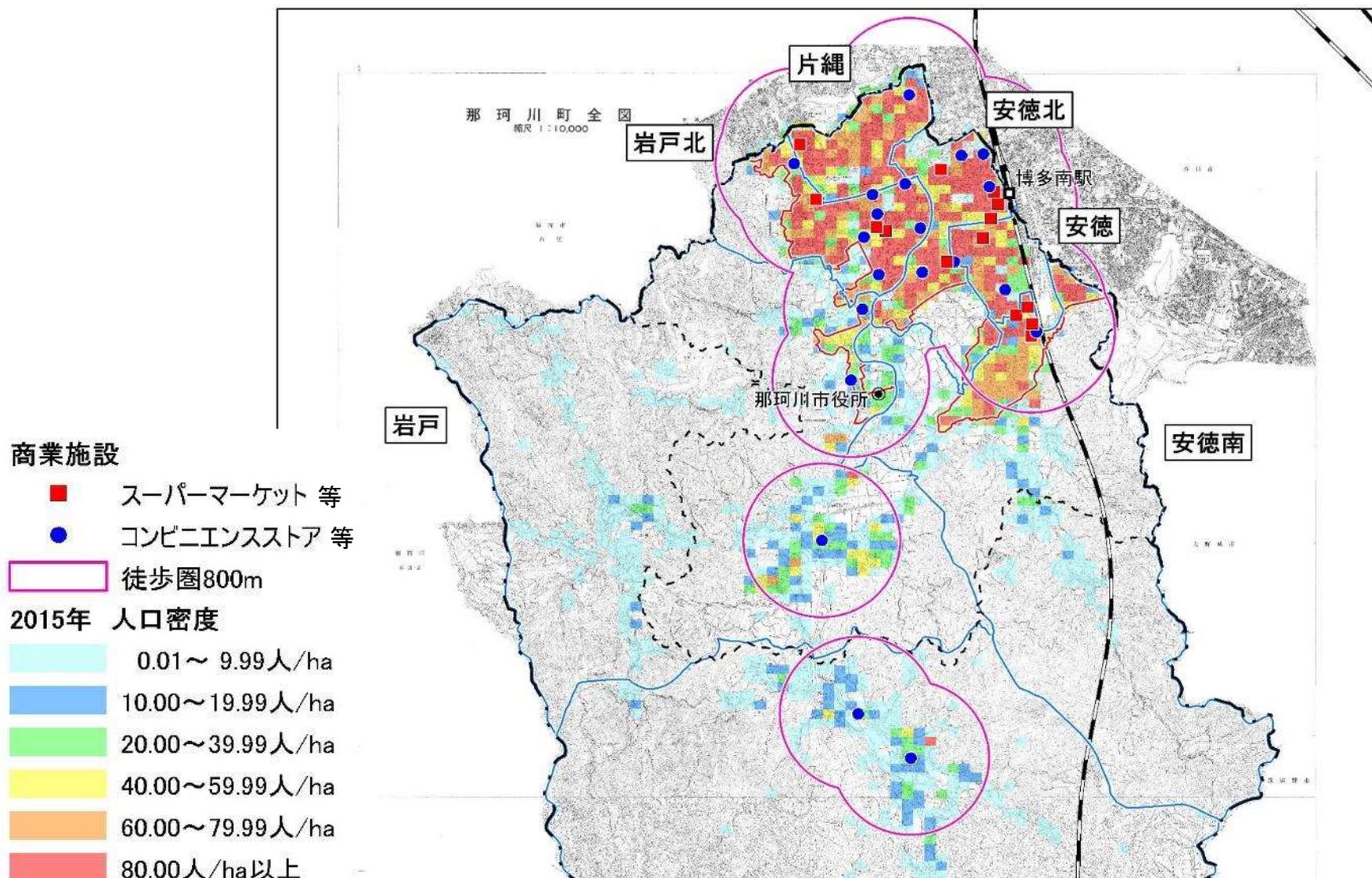


図 商業施設の徒歩圏と人口密度

■ 類似都市との都市構造上の各種指標比較

- 人口規模の類似都市と比べると、各指標の偏差値は高い



図 那珂川市と類似都市(人口10万人以下)の偏差値レーダーチャート